

第 15 回

世界オリエンテーリング選手権大会

報 告 書

1993 年 10 月 7 日 ~ 14 日

United State of America

— West Point —

## ごあいさつ

このたびは、1993年世界選手権大会に出場する日本代表チームを援助しようというわれわれスコードの活動にご賛同をいただきありがとうございました。皆様方のご支援によりまして、チームは無事、世界選手権大会出場を果たすことができました。ここに御礼を申し上げます。

競技成績につきましては、本報告書に記された通りでございますが、遠征を行ったメンバーの1人1人が、数字には表れない多くの成果を持ち帰ったことと信じております。われわれスコードといましましては、こうした成果を次代につなげていくとともに、今後とも日本代表チームの発展に寄与して行きたいと考えております。

今後とも皆様方のご支援をよろしくお願ひいたします。

WOC SQUAD JAPAN 代表 宮川達哉

## 第15回世界選手権大会報告書 目次

ごあいさつ	宮川 達哉	1
目 次		2
日本選手団名簿・チームの行動日程		3
会計報告		4
世界選手権大会に至るまで	山岸 優也	5
世界選手権大会への準備	金子しのぶ	7
世界選手権代表に選ばれるまで	入江 崇	9
初めて世界選手権大会に参加して	渡辺 初実	10
世界選手権におけるチームオフィシャルの仕事	藤井 範久	11
選手をサポートする仕事	金田 収子	12
世界選手権大会にオフィシャルとして参加して	山本 英勝	13
ショートレースを走って	福士 淑子	14
ショートレースを走って	村越 真	15
クラシカルレースを走って	木植 早生	16
クラシカルレースをより速く走るために	国沢 五月	18
リレー観戦記	吉田 勉	20
リレー3走	宮本知江子	22
リレーを走って	鹿島田浩二	23
男子チームの結果を総括して	村越 真	24
女子チームの結果を総括して	山岸 優也	25
WOCと国際的なオリエンテーリング・シーンへの展望	村越 真	26
<b>世界選手権大会レース全成績</b>		
ショート予選		29
ショート決勝		33
クラシカル		38
リレー		40
リレーメンバー一覧		43

## 日本選手団名簿

**選手** 木植 早生  
 宮本知江子  
 金子しのぶ  
 福士 淑子  
 渡辺 初実  
 村越 真（男子コーチ兼任）  
 吉田 勉  
 国沢 五月  
 鹿島田浩二  
 入江 崇

**役員** 山岸 優也（チームリーダー、女子コーチ）  
 藤井 範久（マネージャー、コーチ補佐）  
 } 山本 英勝（通訳、アシスタント）  
 金田 収子（アシスタント）

## チームの行動日程

9月29日～ 先発組による自主トレーニングキャンプ  
 10月 2日 選手役員現地集合  
 3日～ トレーニングキャンプ参加  
 7日 世界選手権大会へのチェックイン  
 8日 モデルレース／開会式  
 9日 ショート予選  
 10日 ショート決勝  
 11日 モデルレース  
 12日 クラシカル決勝  
 13日 トレーニング／休養  
 14日 リレー／閉会式  
 15日 選手役員現地解散

## 会計報告

●支出	世界選手権大会エントリー費	226,800円
	世界選手権大会中の宿泊費	446,727円
	トレーニングキャンプ参加費	219,340円
	トレーニングキャンプ中の宿泊費・食費	496,180円
	現地での交通費（レンタカー、ガソリン代）	254,030円
	チームユニホーム購入費	399,850円
	販売用地図購入費	77,760円
	<u>雜費（通信費、資材購入、振込手数料）</u>	<u>55,596円</u>
		2,176,283円
●収入	賛助会費	1,128,600円
	チャリティ・ショート大会開催者より	175,000円
	ビデオテープ頒布収益	201,900円
	選手役員個人負担	420,000円
	<u>S Q U A D より</u>	<u>250,783円</u>
		2,176,283円

### ●備考

J O A からは、金額は未定ですが遠征補助金が出る予定です。

現地までの渡航費用は自己負担となります。

10月末の時点で日本円で清算できていない支出は、1ドル108円として計算しています。

S Q U A D からは、これ以外にも本セレクション運営費用の補助、9月の強化合宿の補助として30万円ほどが支出されています。

この報告書の作成費用として約8万円がかかりますが、これは S Q U A D から支出いたします。

世界選手権大会の地図を大会会場で販売いたしましたが、この収入約13万円を S Q U A D 会計に繰り入れます。なおこの地図は全て売り切れました。ご協力ありがとうございました。

世界選手権大会の様子をまとめたビデオテープを販売する予定です。発売日・価格等未定ですが、ご協力を願いいたします。

## 世界選手権大会に至るまで

山岸倫也

世界選手権大会が終了した。この結果は選手だけが努力して成し遂げられるものではないし、直接的にかかわったコーチをはじめとするS Q U A D関係者の努力だけによって成し遂げられるものでもない。それは、贊助金をいただいた皆様をはじめとするオリエンティアすべての「意志」の結果だと受けとめたい。私たちがもっともっと強くなるためには、日本（もしくは東アジアかもしれない）のオリエンティアすべての意志をその方向に少しでも動かすことが大切だ。この報告書が、その推進力の一部を担うことができれば幸いである。

さて、この報告書をまとめるにあたってまず思いいたるのは、ここに至る道程である。世界選手権はたった1週間、レース日数にして4日の短い大会である。しかしそこに至る道程は具体的な活動をあげただけでも1年前からはじまっている。国内での予備セレクションは1年前からはじまるし、トレーニングキャンプも1年前には第1回目が開催される。そして、本セレクション、強化合宿、あわただしい直前の最終トレキャンと選手は休む暇もないくらいである。さらに近年では、偶数年（世界選手権は奇数年に開催される）にもワールドカップが開催されるようになっている。

ここでは、世界選手権をめざす選手たちがどのような道程を踏んできたのかを紹介したい。

### ●予備セレクション

WOCへの本セレクションへ出場する選手を決定する予備セレクションは、平成4年度の公認大会および大学大会を通じてのポイントレースによって行われた。対象となったのは公認埼玉、東日本、千葉大、朝日、筑波大、早稲田大、全日本の7レースである。各レースとも男子は上位20位まで、女子は上位15位までに得点が与えられ、それともっとも得点の良かった3レースの合計得点をその選手のポイントとした。本セレクションへ出場できるのは、男子はポイントの上位20位まで、女子は上位15位までの選手である。またコーチ推薦により、おもにジュニア選手から若干名を選出できた。

女子においては15名の予備セレクション通過者のうち主力選手を含む5名もの選手が本セレクション出場を辞退するという予期せぬ事態が発生し、予備セレクション通過のボーダーを引き下げるようになった。

### ●本セレクション

本セレクションは、全日本大会およびS Q U A Dにより独自に運営された2つのレース（5月：岐阜県「望郷の森」および7月：滋賀県「あいの土山」）によって行われた。選手選考のルールは、各レースの1位の選手をまず通過者とし、残り男女各2名をコーチ推薦で選出するというものであった。今回は、世界選手権大会の日程が通年よりも2カ月遅くなっていたため、本セレクションレースの日程も遅らせるべきではという意見もあったが、10月という休みをとりにくい時期に世界選手権が開催されることを考え、早めに選

手を選出し、休暇の獲得に万全を期すことにした。

全日本で村越と木植が、1本目の本セレで鹿島田と福士が、2本目で入江と渡辺が本セレを通過し、コーチ推薦によって吉田と国沢、金子と宮本がそれぞれ選出された。

### ●トレーニングキャンプNo. 1

選手が、世界選手権大会に向けて具体的な準備を始めるために重要な役割を果たすのが第1回目のトレーニングキャンプである。このトレーニングキャンプは通常世界選手権が開催される1年ほど前に、開催国（ほとんどの場合開催される地域）で行われる公のトレーニング合宿で、今回は昨年の10月にワールドカップの開催時期にあわせて、世界選手権が開催されたのと同じハリソン州立公園で行われた。ここで選手は、テラインの特性、必要とされる技術、地図の表記における地域的な特徴、地面や植生の状態をはじめ、気候、風土、食事などに至るまで競技に影響を及ぼすあらゆる条件をチェックする。今回は、このトレキャン1に村越男子コーチをはじめ、今回代表選手になった者では吉田、鹿島田、金子が参加している。ここでのトレーニングがどれだけ有効であるかは、金子しのぶの報告を読んでいただきたい。世界選手権大会は事実上1年前からはじまっているのである。

### ●国内での強化合宿

国内での強化合宿は3回行われた。そのうち2回（5月：富士山麓と6月：三重県「青山高原」）は本セレクションが行われている期間中で、代表選手に対して特別なトレーニングメニューを提供するというものではなく、セレクション出場者のコンディショニングのためという性格が強かったが、3回目の合宿（9月：八ヶ岳）では、代表選手向けに世界選手権に向けたメニューでトレーニングを行うことができた。

### ●トレーニングキャンプNo. 2

世界選手権の直前週に行われたのがトレキャン2である。私たち日本代表チームもこのトレキャン2の開始日（10月3日）にあわせて渡米した。また、少しでもはやく現地に慣れることを目的として7名の選手・オフィシャルが数日前からトレーニングを開始していた。この短い期間（10月3日から7日：正味5日）に選手は、テラインを相手に技術的な最終調整をし（この時点ではじめてこのテラインに実際にいる選手もいる。もちろん地図やスライド・写真を用いたイメージトレーニングは行ってきたが）、時差ボケをなおし、休養して疲れをいやし、集中力を高めて、精神的にも体力的にもピークに持っていなければならない。コーチやオフィシャルは、選手がこうした作業を行うのを全面的にサポートする。村越と山岸の両コーチは選手をテラインに適応させるのに知恵をしぶり、藤井はコーチを補佐するとともにマネージメントを担当し、山本は通訳とトレーニング面での雑用をこなし、金田は生活面での下働きとマッサージをこなした。

コーチとして楽だったのは、外国それもスカンジナビアタイプのテラインだというのに、選手が日本と同じようなオリエンテーリングを実践できたことだ。ミスをしても、それは日本のテラインでもおかず同じタイプのミスなのである。これならば、コーチはいつもと同じような方法論を選手に示すことができる。トレキャン2は、吉田が持病の腰痛を引き起こしたのと、宮本が時差ボケのためか熟睡できなかったのを除けば順調に終了した。

# 世界選手権大会への準備

## トレーニングキャンプ1に参加して

金子 しのぶ

「よし、93' WOCにいくぞ！」。そう思ったのは92年5月、APOCの後でした。日本で開催されたこのBIG大会において、私は久しぶりに1つのレースに向かって準備し結果を出すという面白さ、1つの目標に向かって一所懸命努力するという楽しさを味わってしまい、もっと大きな舞台でそれを実行してみたくなったのでした。

さてWOCに行くと決めたものの、一体どんな目標をたて、どんな準備をすればよいのか、まったく分かりませんでした。もちろんWOCに行くには、国内のセレクションに通過することが第一条件なのですが、私としては国内セレクション通過を目標にはしたくありませんでした。国内セレクションを目標にしてしまうと、通過した時点で満足てしまい、WOCで良いレースができなくなってしまうような気がしたからです。私の目標はあくまでもWOCに挑戦することにありました。

そこでまず、WOCがどのようなテラインで開催されるのか、また世界の中でいったい自分がどのような位置にあるのか、今の時点で自分にどのようなレースができるのかを確認するため、92年10月に行われた第1回目のトレーニングキャンプ（以下トレキャン）およびワールドカップ（以下WC）に参加することにしました。

トレキャンとは、事前にレースの行われる地域の一部が解放され、そこで公式にトレーニングを行うことのできる期間のこと、そこではテライン、地図、気候、食事など、レースに関わるさまざまな条件を確認できるように設定されています。通常、WOCの開催される1年前から2~3回行われます。今回の世界選手権大会への遠征でも、はじめの数日間、チームは第2回目のトレキャンに参加していました。

さて、アメリカ遠征に当たって問題となったのは、遠征費と休暇でした。4月に入社したばかりの新入社員であった私には、貯金もなければ有給休暇もありません。それでも費用のほうは必死に貯めればなんとかなるものの、有給休暇は増やしようがありません。そのとき私の持っていた有給休暇は5日。トレキャンとWCの両方に出るには最低6日の休日が必要でした。上司に相談したところ、「まあ1日ぐらい欠勤してもボーナスが少し減るだけだから、気にしないでいってらっしゃい」という温かい言葉を頂き、結局1日欠勤することで解決しました。

日本人でトレキャン1に参加したのは私のほか村越夫妻と怜君、カッシー（鹿島田）、石井（龍男）さん、田代（雅之）さん、そして途中から（吉田）勉さんが加わって計7.5人でした。さて、トレキャンの会場に着くと、APOCで知り合ったNZのキャティやアリスタをはじめ各国のトップエリートランナーがずらりと勢ぞろいといった感じで、私はそれだけで緊張してしまいました。1年前のトレキャンとあって雰囲気は穏やかなものの、公開されたトレキャンのマップを見る目つきは真剣そのもの。各選手のWOCへ懸ける思いが伝わってきて、WOCはもう今から始まっているんだなという実感がわいてきました。

翌日から丸3日間そのトレキャンマップでトレーニングをしたのですが、はじめはとに

かく大パニックでした。足元は岩だらけで怖いし、岩も岩だけど、こぶもピークも岩で、地面も岩、オープンも岩といった感じで、日本では見たことのない景色が広がり、まったく地図と対応ができないのです。小さな沢なんて岩盤が浸食されて凹んでいるものを指していたりで、そこにコントロールが置いてなければ、私にとっては沢とは認められないようなものなのです。どんなに一所懸命地図を見ても、見たことのない景色が現れるのですからイメージのたてようがありません。ようやく地図と現地の対応ができ、オリエンテリングらしくなったのは、3日目のことでした。

その後ボストンに移動してWCに出場したのですが、テラインに対して不安を持ったままのレースとなってしまい、一度ツボッてからは正しい所にいても不安で、自分でも何をしているのかわからない状態でレースは終わってしまいました。しかしこのレースによって「自分のレースをすること」がWOCの目標として明確になりました。

さてそれから9ヶ月後、私は無事セレクションを通過し、93' WOCへの切符を手にしました。体力より技術面に不安のあった私は、とにかくイメージトレーニングをしようと1年前のトレキャンの地図を引っ張り出して眺めました。すると前回はまったく想像できなかった地形が面白いようにわかるのです。行ったことのある場所はもちろん行っていない場所でさえも、「この辺はこうなっているんだろうなー」とその景色が浮かんでくるのです。おかげでテラインに対する不安は消え、むしろアメリカで楽しく走っている自分のイメージができるが、地図を見ながらワクワクしてきました。実際この時まで、昨年のトレキャン参加がこれほど役立つとは思いませんでした。

さて、いよいよアメリカに着いて、山を走った私は1日目からルンルンでした。想像している地形が思ったように目の前に広がるのですし、しかもそれが日本にはない複雑で面白い地形なのですから、こんなに楽しいことはありません。日本にいるときと同じようにOLをすれば、同じようにできるという自信がつき、地形に対する不安はまったくありませんでした。もちろんミスもするのですが、これは日本にいるときもするミスなので今はしかたないと開きなおることにしました。

そして本番、この世界一を決める大きな舞台で私は思いっきりのびのびとレースをすることができます。今はWOCに向かって自分がしてきた準備とその結果にとても満足しています。そしてさらに2年後に向かって、これからもがっばっていきたいと思います。

## 世界選手権代表に選ばれるまで

入江 崇

オリエンテーリングを始めて半年ほどたったころ、金沢での都道府県対抗リレーの前夜、台風19号による停電の中で、外注となった夕食のカツカレーを食べていると、あちこちに見えるピンクのJAPANジャージが僕の目をひいた。チェコから帰国したWOC選手たちだった。夕食後、WOCのスライドや地図、報告書をみせてもらい、僕はとても興奮した。いつかは僕も……と思ったものだ。

あれから2年。それを実現する最初のチャンスがやってきた。WOCの本セレクション出場が決定したのだ。でも僕はこれをチャンスだとは思っていなかった。選考基準はとてもきびしいものであり、自分が通るとはとうてい思えなかった。しかし、第2戦で予想外のトップを取り、通過してしまう。テラインが大の苦手とする「天神山」から大好きな「土山」に変更されていなからしたら、自分は選ばれなかっただろうし、もしトップではなく2位だったら推薦されなかっただろう。だけど、あれだけきびしい基準をクリアしたのだから、日本代表という立場に気おくれすることは全くなかった。

とはいっても、本番に対する具体的な目標を決めろといわれても、「そんなの走ってみきゃわかんないよー」というのが本音だった。今回のWOCは、今の実力で最大限速く走り世界を勉強してくるという心構えで臨んだ。そして2週間のアメリカでのトレーニングとレースとを通して、世界との力の差を知ることができた。ショートの結果にも満足している。そして何よりも世界に対する目標を設定できるようになったことが今回の最大の収穫だったと思う。

## 初めて世界選手権大会に参加して

渡辺初実

今回初めて世界選手権に参加して、とても感動しました。とてもいい地図で、いいコースを、自分にとってベストな状態で走らせてもらえて、とても幸せだと感じました。選手がベストな状態でレースができるように、周囲の人々も気を使ってくれるし、環境も整えられていたし、とにかく、ふつうの大会とは違うんだ、ということが身にしみて感じられました。

私にとって“世界選手権”とは、セレクションを通過して自分が走るんだと思うまで、とても遠い存在でした。それどころかセレクションを通過してからも、自分が走るということと遠い存在という2つのイメージのギャップに、苦労しました。

アメリカという日本と違ったテラインでレースをする、それも自分のコンディションを整えてベストのレースをするというのは、自分一人では絶対にできないことだと思います。私にとっては、いつもと違う環境にいるということだけでもけっこう大変なことなのに、さらにそこで自分の最高のパフォーマンスを演じるなんて、周囲の人々の協力なしにはとてもできなかったことを感じています。日本と違うテラインになれるのも、なかなか大変なことでした。でもそのおかげで、自分のO.Lの形を見直すことができましたし、これから何をしてよいのかを考えることができますようになりました。

結果的には私は今回、自分としては悔いの残るレースをしてしまったと感じているからかもしれません、大会が終わったときには、もう一度挑戦しようと心に決めていました。

“世界選手権”とは、選手にとって何度も挑戦したくなるようなとても大きな魅力をもった大会だと思います。私もそんな魅力に捕まってしまったのかなあ、と今思っています。

こんないい経験ができたのも、いい思いができたのも、皆様のご協力のおかげだと思っています。本当にありがとうございました。私はまだまだ下手なオリエンティアですが、これからも頑張ろうと思っています。

## 世界選手権における チームオフィシャルの仕事

藤井範久

今回の世界選手権には、日本代表チームのオフィシャル（役員）として山岸倫也、山本英勝、金田収子、藤井範久の4名が参加した。オフィシャルの仕事分担は明確には決めていなかったが、概略的にはチームリーダーに山岸、トレーニング面のサポートには山本、生活面のサポートには金田、会計およびマネージメントに藤井があたった。

さて、チームオフィシャルの役目は、選手が競技に専念できるようにし、選手に満足のいくレースをしてもらうことであろう。具体的には、トレーニングキャンプ中はトレーニングメニューの検討、地図のマル書き、トレーニングテラインでのコントロールフラッグの設置および撤収（今回はトレーニングテラインにはほとんどフラッグが設置されていなかった）、マッサージなどがあげられよう。また山岸にとっては、女子選手へのコーチングもオフィシャルとしての重要な仕事であった。

本番に入ってからはスタート地区やゴール地区での選手のサポート、ビデオを用いた大会の記録映像の撮影、さらにチームオフィシャルミーティングへの出席などがオフィシャルの仕事である。このチームオフィシャルミーティングとは、世界選手権の運営者側から競技に関する重要な情報（たとえばスタート時間、テラインの特徴など）が提示される場であり、また各国のオフィシャルから出される競技に関する質問や要望にこたえる場でもある。このミーティングには山岸、山本、藤井が中心になって参加した。

また生活面のサポートの1つとして、遠征中の洗濯を金田が引き受けってくれたことは大いに助かった。アメリカには大型の洗濯機と乾燥機があるとはいえ、連日のトレーニングやレースで汚れたOLウェアを洗うのはたいへんなことである。1日に3回の洗濯をしたこともあるようだ。また、故意か過失か知らないが、男性用の下着（誰のは想像してみてください）が混じっていたのを知らずに洗濯してしまい大騒ぎをしていたようだ。

こうのように説明していくと、オフィシャルは働くためだけに遠征しているように思われるかもしれないが、実はそうでもない。実際にはトレーニングは一緒に行っているし、半日ではあるがニューヨーク市内の観光もした。またオフィシャルカップと称して世界選手権のレースが行われない日にオフィシャル全員でパブリックレースに参加して、タイム（ハンディ付き）を競い合って楽しむこともできた。そして何よりも、どのようなレースをするのかを考えながら選手をスタートから送り出すとき、そしてまだかまだかとゴールで待つときに、オフィシャルならではの楽しみを味わうことができるのである。

最後になりましたが、今回の世界選手権の参加に際して、さまざまな形で援助していた皆様に感謝いたします。本当にありがとうございました。

## 選手をサポートする仕事

### はじめて世界選手権大会に接して

金田収子

今回オフィシャルとして、日本チームに同行させていただきました。8月下旬に突然決心したものの準備は十分とはいはず、海外に行くことすら初めての私に何ができるだろうとはじめはとても不安でした。しかし、他のオフィシャルの方々をはじめチームの皆さんのおかげでたいへん楽しい充実した日々を送ることができました。

私のした仕事は、トレーニングパートナー、洗濯、マッサージ、諸々の雑用が主なもので、WOC中は荷物持ちや、スタート、ゴール、ビデオ取りの助手など、指示されたことをこなす日々でした。いちばん年下ということもあり、遠慮なく使ってもらえ、またアドバイスもいただけて、とても動きやすく楽しくでき、また勉強になりました。

オフィシャルという仕事は初めての経験で、地味で大変なものだと思いました。心からチームのことを考えていないと、勝ってほしいと思っていないと、仕事自体が見つけられないし、また仕事をしてもやっていられないと思います。その点今回はそんな心配は無用で、レースの結果を選手と一緒に喜べるなんてすごいことなんだなあと、得をした気分でした。

はじめて目にする世界選手権は、目からウロコが落ちるようでした。こういう世界があるんだ、オリエンテリングってこういうスポーツだったんだ、と分かり、言葉に現せないくらいの感動を覚えました。ただもう少し予備知識があれば、もっと世界選手権というものを楽しめたのにと反省しています。

何しろ不慣れで至らぬ点も多かったと思いますが、こんなに楽しく過ごせて、自分はなんて幸せ者なんだろうと思います。めったに得られないこの経験をもとに、これからどうSTEP UPしていくかが、いちばん最後に与えられた、自分に対しての大仕事であり、責任であると考えています。

## 世界選手権大会に オフィシャルとして参加して

山本英勝

はじめは冗談半分で、通訳として世界選手権のオフィシャルになろうか、ということをいっていたら本当にそうなってしまいました。本セレクションの第2戦目、選手が決定しオフィシャルをどうするかミーティングで話していたとき、倫也さんが特殊な能力をもっている人が好ましいといいました。その例として、帰国子女でアメリカ在住11年の経験をもつ僕をあげたのです。

倫也さんが僕の名をあげたときには、冗談半分と受けとめて、実際、本当に聞く間際まで、自分が実際にいくとは思っていませんでした。そのため、資金のやりくりや、卒論の予定などもまったくてず、遠征中もお金がないと困り、帰国してからは卒論がまったくできていないと困り果てています。

このような状態にあっても、僕は行ってよかったと思います。自分でいうのも何ですが、オフィシャルとして、山本英勝しかできない仕事（こういうと大げさですが）をして、チームのために力になれたと思っています。英語をしゃべり、コミュニケーションを円滑にしただけでなく、幼いころニューヨークに住んでいたため、その地域に関する情報を提供することができました。

やはり、その国の言語を話すことができてかつ地元に詳しい人をオフィシャルとして加えるのは遠征を楽にする上で不可欠と実感しました。たんにコミュニケーションするなら、今回のメンバーでも（英語を話せる人が）何人もいて、トラブルが起こらない限り彼らの英語レベル（というか意志を伝える力）で十分だったと思います。しかし、予期しないことが起こった場合、それでは危険です。今回でも何回か高度なコミュニケーション能力が要求される機会がありました。

しかし、今回の僕の世界選手権参加は、チームのため以上に自分のためになったと思っています。世界選手権を観戦できたこと、クラシック、ショート選手権者のアラン・モーゲンセンとペタ・トルソンに話せたこと、日本代表チームとトレーニングできたことなど、よかったですをあげていったらきりがないでしょう。このようなことが自分のオリエンテーリングを変えて、次回の世界選手権で活躍できるようにながればいいと思っています。これからは、「前回の世界選手権にオフィシャルとして参加したから今回活躍できた」といえるように努力しようと思っています。期待していてください。

## ショートレースを走って

福士 淑子

世界選手権ではショートレースは2回目だが、前回のチェコでは予選ペナの失態で決勝レースに出走できなかったため、私としてはショートレース初参加、初挑戦の気分だった。2日にわたって予選、決勝が行われたため、両日共午前中にさっさと走り終えてのんびりといったところ。しかも予選は観戦者もあまりいなく、WMらしくない雰囲気に少し拍子抜けしてしまった。とくに今回は縮尺1万分の1のマップを使うということで、トレーニングキャンプ後半は1万分の1での表現に慣れることに追われた（結局、1万5千分の1でのトレーニングよりも多くの時間を費やした）。最初は戸惑いも多かったが、逆に細かい地形が読みやすいうことがわかり、むしろ走り易い感覚を得てレース本番を迎えた。

10月9日。予選E組（A～Eまで予選は5組ある）は3.3km、アップ130m。同時刻スタートに金子しのぶさん。WOC最初のレースのためか緊張している自分に気づく。顔がこわばって、プレスタート地点で見送ってくれたオフィシャルの（山本）ヒディ、（金田）収子に声もかけられずじまい。でも、本スタートまでのゆっくりしたジョグで、ずいぶんと落ちつき取り戻し、静かにスタートできた。

ショートOは、コンピのようなショートレッグとミドルレッグを組み合わせたスピードの出るコースで、コンパスと歩測で方向を維持すれば日本でのOLで十分対応できるものだった。大会を通してポストフラッグがパンチ台の上に置かれ（高い位置で見やすかった）、まっすぐ進んでいれば視野に入ってくることが分かっていたこともあり怖がらずに走れた。少し長めのレッグに躊躇して選んだ安全策の道ルート、さらにはコントロール手前で何回かまごついた結果、29分46秒。Aファイナルへのボーダーまで2分30秒。このタイム差は振り分けられた予選組の運もあるが、前回はタイム差を見てただため息をつくだけだったのに比べ、もう少し貪欲な走りをすれば、悔しい！って叫べるぐらいの所までは手が届きそうな感触が得られた。

Bファイナル決勝は予選よりもスピードの出るコースで3.5km、アップ85m。予選レースを走ってテラインに対する不安はなかったため積極的なレース内容。結果を見ると29分台に11人もいるほどの秒差の争い。気を許したラス前コントロールでの1～2分のミスが悔やまれる……といったところだが、私自身は今回の順位云々よりも他国選手と僅差のタイムで争えたことが何よりも嬉しかったし、楽しかった。自分の出来次第でよりスリルのある、面白いレースができるという自信が得られたことが大きな収穫だった。潜在的なコンプレックスが拭い切れず、萎縮していた自分から少し抜け出せたかな、と思う。心身ともにもっとタフになって、次は挑戦的な走りをしてみたい。

## ショートレースを走って

村越 真

前回のWOCでは男女とも決勝A進出は0であった。今回の男子の目標は1人ないし2人が決勝Aに進出すること。前回の私の11位、そしてカッサーの成長を考えれば妥当な目標であったと思われる。北欧にも似た難しいテライン、地形の細かさに対応した1:10000の地図の採用は、日本チームにとって有利に働くと考えられた。実際私たちのチームの抱える課題は技術的なものよりもスピード面なのだ。

だが、残念なことにその可能性を現実にすることはできなかった。男子では私の11位が最高で、他の4人は21位以下で決勝Cとなった。また女子は全員が決勝Bであった。しかしトップからのタイム差は割合でいっても全体的に小さくなっている。私たちが進歩した以上に世界のオリエンテーリングはスピード化しているのである。高速かつ正確なオリエンテーリングをしなければ予選は通過できないのだ。21~22分のコースで、男子ではトップと3~4分以内、女子では5分差が予選通過ラインであった。クラシカルの優勝者のアラン・モーゲンセンや前回ショートの優勝者のペター・コザックですら予選通過に失敗していることも、このレースの難しさを物語っている。

さて決勝である。決勝となるとレースはさらに高速化する。ほとんどベストに近いレースをした私も決勝は33位が精いっぱい。ミスがなくても28位くらいといったところだろう。逆にいえば予選ではそれだけいいレースをしたということだ。一方決勝Cでは鹿島田が7位、初出場の入江が13位と、それぞれ実力を発揮することができた。女子は福士がトップと6分差の36位、宮本が1分弱の遅れで41位。これも健闘と言えるだろう。

コースはスピードアップするように組まれていた。6位になったヨルゲンは「易しすぎる、ただ走ってパンチするだけの競技だ」と不満をもらしていたが、それでも優勝はナビゲーションにすぐれたノルウェーのペター・トールセンであった。彼も、そして女子優勝者のアン・ボルゲンとともに冷静なナビゲーションを強調していたのが印象的だった。予選決勝ともウイニングタイムは22~3分。これでもコントローラーはコースを短くしようと要求したらしい。コントローラーやプランナーの予想した以上にトップレベルの選手の競技力は向上し、スピード化しているのだ。ただミスをしないだけでは通用しない高速ナビゲーションの時代が訪れていることを感じるレースであった。

## クラシカルレースを走って

木植早生

クラシカルの朝はついに雨だった。この10日間いく度となく「明日は雨」、「週末は雨」……と予報されながら、すばらしい秋晴れが続いてきたのに。「なんでこの日にかぎって……」と誰もがつぶやいたことだろう。

スタート行きのバスに乗るまで車の中で待機しながら、昨晚のミーティングの内容を思い出した。女子のコースは8.7km、登りは420m。今回のWOCはどのレースも短めに設定されている。ラジオコントロールの位置から推測すると、どうやら④-⑤-⑥にロングレッグがあるらしい。なんだかそのロングレッグで何かが起こりそうな予感して、ドキドキ、ワクワク。はたまた末恐ろしいか生唾をのむ。

時間だ。バスに乗り込む。車窓から見える左手の森が、今日のレースの舞台になるのか。そういえば（先にスタートした）福士さんはもう②あたりまで行ったかな、など思いがめぐる。

スタートへは、バスを降りてからますます強くなる雨の中をさらに10分ほど登って行かなくてはならない。「ゴールで待っているよ」という村越君の言葉を後に、雨の中に飛び出していく。倫也コーチがお供してくれる。こういう悪コンディションになると、サポート役の有難みが身にしみる。厚着しているおかげで身体は冷えないけれど、指先の冷たさはどうにもならない。スタート前の緊張もが高まってくる。

「まあ、気楽にやってこいや」と自分に声をかけながら、ついにレースが始まった。地図を取った瞬間にその地形のものすごさが目に飛び込んでくる。何億年も前の恐竜時代、いやもっと以前に造られた大地を氷河が削ってできあがったこのテライン。思わず、地球が造りだされたころを想像してしまった。この激しい雨、岩山、崖、湿地、ヤブ、急斜面……、すべてを集めたハードで、ディフィカルトで、タフなテライン。そして巧みに組まれたコース。これぞクラシカルレースよ、そんな驚きが一瞬にして頭の中を駆けめぐる。

まずは①、その前にこの巨大な地図をどう折るかが最初の閂門だ。慎重に、落ち着いて、コンパスをセットする。ヤブに捕まって歩きペースになってしまって「現在位置ははっきりと把握しているからOKよ」って、マイペースで難なくパンチ。②へはショートレッグだ。短いからこそ注意しなくちゃと慎重に進んでくると前方に女子選手がウロウロ。もう抜かれたのかな、と思う間もなく彼女はすっと寄ってきて「①はどこ?」。仕方がないからできない英語で「バック」と叫ぶ。あの崖を回り込めば②があるはずだと思っていると、さっきの選手が抜いていった。人は人。自分はマイペース。②を通過すると再びさっきの女子選手がキヨロキヨロしている。「彼女は足は速いけれどミスしているんだ」と思うとなんだかほっとする。

⑤はついにロングレッグ。ルートは決めた。湿地をややはすすつもりが、ヤブが恋しくなったのか、吸い込まれるように体はヤブの中へ。もがいてずいぶんとつまずいた。すったもんだの挙げ句、パッと空気が一面やまぶき色になった。「すごーい」。広葉樹のスーパーA、黄色い林だ。気分は爽快。さて⑤のコードを確認しようとすると、えっ、えええ。チェックカードがない。さっきのヤブの中で何度も転んだときに落としてきたらしい。

あわてて300mほど戻ると、チェックカードは逃げも隠れもせずにじっと雨に打たれ、ご主人様を待っていてくれたよ。

さて、⑥もまたロングレッグだ。ルートは沢と湿地をつなぐラインしかないだろう。降り続く雨でぐしょぐしょ、ズブズブの湿地、もやもかかりだし見通しは悪い。人気はまったくない。なのに時折「コツン」「パキッ」と巨大なドングリの落ちる音、「キュッ」となくリスの声がやけに大きく響く。さみしい。……。距離もそろそろいい、左手の湿地のある沢からアタック。間もなくだ。広い尾根に登り、岩を見て下っていくと、道？ 道がある！ あるわけないのに。地図に道なんてでのっていないよ。まさか。うわっ。なんのことだ。よりによって本番中にやってしまうとは。頭に血がのぼるのを感じながら、呆然と立ちつくす。道のある尾根、道のある……、と必死で地図を見回す。どこだ、どこだ、どこだ？ しっかりしろ、あせるな、動き回るな、落ちつけ、大丈夫だ……。もしやここ！

あたりを見回すと岩もクリアリングも地図の通りある。リローケートできた喜び感じる間もなく、今度は⑥への長くて急な斜面が目に入ってくる。いったい何本コンタがあるの？

壁のような斜面が私をせせら笑っているかのようだ。スタミナ切れか、体が冷えきったためか、ずっしりと重たくなった体を引きずるようにして斜面を登る。斜面の下の方を2人の選手が走っていく。彼女たちは⑧へ向かっているのだろうか……。

ようやく会場のアナウンスも聞こえ始める。ざわめきが近づいてくる。ラス前をチェック。会場が見える。「さなえー、さなえー」の声援。「キウエ・サナエ・ジャパン」のアナウンスは3回繰り返された。ついにゴール。駆け寄ってくる友。ねぎらいの声。「ノーミスでした」が自分の第一声。あのロスもミスも一瞬忘れられた。103分13秒、79人中69位。1位は62分27秒。前半のスローペースと後半のスタミナ不足は現時点ではどうにもならないとしても、ミスとロスで10分は短縮できる。自分としては一人旅のクラシカルが好きだし、また機会があれば、ドラマチックなクラシカルで「さすが、かっこいい！」なんて言ってもらえるようなレースをして、名誉挽回をしたいと思ってる。いろいろな形で応援してくれ、期待してくれた皆様、ありがとうございました。

## クラシカルレースをより速く走るために

国沢五月

WOCの個人レースがショートとクラシカルに分かれて、今回が2度目のWOCでした。2度目ともなると、それぞれの競技の性格が明確に打ち出され、ショートに必要な技術、クラシカルに有効な作戦が何であるのか、そして私たちに足りないものは何かが見えるよう思いました。もちろん、全般的なオリエンテーリング技術の差、体力、スピードの違いは前提としてあるわけですが、そのような個人に還元される抽象的なものではなく、より具体的に日本チームとして、さらには日本のOL界全体としてどうしていくべきなのかを、ここではクラシカルレースを走った印象をもとに書いていこうと思います。

まず第一に、これは前からも常々いわれていることですが、国内のレースでの競技時間の短さです。最近のエリートクラスのレースは70～80分台のウイニングタイムで設定されていることが多く、時には60分台のこともあります。それに対してWOCでは、ウイニングは90分台（その上、過去90分を切ったことは2度しかないそうです）。日本人にとっては2時間のレースを強いられます。70分程度のレースに慣れてしまっている日本人エリートにとっては、ほぼ倍の時間をより難しく厳しいテラインの中で走ることは、比較にならない集中力を必要とします。そのような状態で、十分な結果を期待できるでしょうか。ここでいっているのは体力的な問題（これならば個人のトレーニングによって解決可能です）だけではなく、長時間にわたり集中力を維持するという機会が、国内にはないという問題です。テラインの制約や参加者の能力幅などの問題もあるでしょうが、エリートクラスでは90分台のウイニングタイムを尊重してほしいと思います。

第二点は、ロングレッグの性格の問題です。クラシカルレースでもっとも重視されているのはロングレッグでの課題です。ショートレッグ、ミドルレッグもあるわけですが、それはコースの方向を変えたり、つなぎであったりすることが多く、日本人もふつうの感覚で対応できます。それは、日本でのコースも、ショート・ミドルレッグでは、海外のレースと同様な課題を要求することがあるからです。しかしロングレッグは、日本においては道走りに集約されることが多く、ロングレッグの間、ずっと集中して走るということに慣れていません。クラシカルでのもっとも重要な課題はロングレッグにおけるプランニングとナビゲーションなのですから、それが私たちにとって不慣れであるということは、決定的であるといえます。

3つめは、これはランナーにとっての課題ともいえますが、私たちに必要なのはただのスピードなのではなく、“高速でのナビゲーション能力”だということです。たしかに、最近の日本のエリートは走力の底上げが行われ、たんに走るスピードならばずいぶん向上したことはまちがいないのですが、それが地図とのコンタクトや方向維持を伴ってくると、そのスピードが生かしきれていません。トラックでのタイムは目に見えて違っても、テラインでのキロ当たりタイムはあまり上がっていないうなります。ショートにおいては、世界はキロ当たり4分台に突入している現在、私たちもキロ当たり5～6分のスピードのオリエンテーリングに慣れる必要があるでしょう。そのようなレースの機会が私たちには乏しいといえます。

以上、3点をあげてみましたが、注意していただきたいのは、レベルの向上には個人の努力を前提にしている、ということです。個人個人が体力的、精神的、技術的向上をこれから2年間の中で向上させていくことはもちろんしつつも、個人の努力をより効果的にWOCでの結果に結びつけるための環境づくりを考えていきましょう、といいたいのです。世界のレベルアップのスピードは、個人の努力だけではどうしょうもないところまで進んでいるのではと思います。



日本代表チーム



典型的な森

## リレー観戦記

吉田 勉

10月14日、凍るような空気の中、リレーの朝を迎えた。ハドソン河の水面からは水蒸気が立ち登り、その雄大な姿を覆い隠していた。

リレーの会場は、ショートの予選と同じウェルチ湖の湖畔に設置された。スタート直後にトンネルで道路を越え、ショートとは反対側の森へ入り、再び同じトンネルをくぐってゴールするように設定されている。地図を受け取ってからスタートまで650mのマークルートがあり、高速でのレース展開が予想される。

個人戦の結果から推測すると、リレーでもこのスカンジナビアに似たテラインでは北欧勢の優位は動かない。しかし、男子では前回優勝のスイスも、第4の男ドミニク・フンペルがクラシカルで6位入賞とメンバーが揃い、2連勝が狙える位置にある。東欧諸国の独立の影響でリレーの出場チームも多くなり、男子は32チーム、女子も21チームを数える。これまでの結果から考えてわが日本チームは、レース次第によっては世界の3分の2に入れる可能性があり、女子も2~3チームが食えるのではないかと期待される。とくに男子は、日本より下位であったアイルランド、アメリカも力をつけている反面、ブルガリア、イタリア、ルーマニアといったチームが伸び悩み、中下位グループはまさに戦国時代の様相を示しており、すべてはこの日の出来にかかっていた。

男子で最初に会場に戻ってきたのは、エストニアのシクステン・シルドであった。しかし、エストニアには彼に続く強い選手がいないため、レースの主導権はそれに続くフィンランド、スウェーデン、チェコ、デンマーク、スイスのグループに握られた。さらに2分遅れてイギリスが2走へつなぐ。村越はトップと4分41秒遅れ、15位で鹿島田にリレーした。順調な滑り出した。優勝候補のノルウェーは日本に遅れること28秒、18位で通過。1走で大きなハンデを負うことになったノルウェーは、このまま優勝争いから脱落してしまうことになる。

2走の中間を鹿島田が16位、トップと9分差で通過したとアナウンスが入る。日本チームが彼の活躍に胸を踊らせてているとき、信じられないことが起こった。「15位で通過の日本チーム村越選手失格」という放送が会場に流れたのだ。一瞬何が起こったのか分からなかった。誰もが耳を疑った。オフィシャルが確認に走った。しかし判定は覆らなかつた。失格したチームはそれ以上レースを続けることが認められておらず、国沢、入江はもう出走すらできなくなつた。私たちはこの大舞台からすっかりはじき出されてしまったのである。

2走では、スウェーデンのケント・オルソンが彼自信の最後のレースをきっちりと走り、2位以下を1分半離してトップでリレーした。続いてフィンランド、スイス、デンマークがリレーし、フランスが14位から一気に5位まで順位を上げる。ノルウェーは8位、イギリスは10位と沈んでいる。鹿島田がゴールする。国沢が待っていることを信じて……。「私たちは非常に痛ましい時を迎えようとしている」。アナウンスが流れる。この時点で13位、トップとの差11分、ニュージーランド、ハンガリー、ドイツ、パルト諸国を従えての堂々の走りであった。

3走でも波乱が起きた。前回のクラシカルのチャンピオンで今回も2位になったスウェーデンのヨーゲン・モルテンソンが大ブレーキを起こす。スイスのウルス・フリューマンがトップで4走につなぎ、2分差でフィンランドが、5分遅れてロシア、スウェーデンが続く。優勝はスイスかフィンランドにしばられてきた。フリューマンがインタビューに答えている。「リレーは4人で走るのだからまだ分からぬ。（4走）のカール・ビューラーは個人戦を怪我で欠場しているが、彼ならやつてくれると信じている」と。残り1.5kmのコールが入る。トップはスイス、そして49秒差の2位は！ フィンランドではない。スウェーデンか？ いや違う。イギリスだ！ ステファン・ヘールが6分半の差をここまでつめている。さあ、最終コントロールに現れるのはスイス、イギリスのどちらだろうか？

果たして、ゴールに最初に飛び込んだのはスイスチームであった。そして3走のステファン・パルマー、4走のヘールと各レッグの最短タイムで追い上げたイギリスが、女子のクラシカルに続き、初のメダルを獲得した。スイスとの差15秒であった。

順位がめまぐるしく変わった男子に対して、女子では北欧勢が圧倒的な強さを発揮した。

1走が予想タイムよりはるかに速い42、3分でリレーする。スウェーデン、フィンランド、ノルウェー、そして2分遅れてチェコ、ハンガリーが続く。前回最下位のアメリカは、ショートのAファイナリスト、フェデラーがトップから7分遅れの11位で2走につなぐ。木植の中間コールがなく心配していたが、最下位ながらアイルランド、スロベニアと1分以内で福士にリレーし、後の展開に興味をつないだ。

2走はスウェーデンのヤンソンがこの日の最速タイム40分32秒をたたき出し、2位以下に4分以上の水をあける。スウェーデンはこの後、ショートチャンプのホグレン、クラシカルチャンプのスコグンとつなぎ、一度もトップをゆすることなく優勝した。ノルウェーは3、4走とも食い下がったが、4分差を維持するにとどまり2位となった。女子は順位の変動がほとんどなく順当なレースであったが、その中では最終的に8位に終わったものの、つねに上位をキープしたハンガリーの活躍が光る。総合力ではかなり劣るだけに、特筆すべきである。

さて日本チームである。期待の福士が1番コントロールで我を失う。50分！ 取り残されるには十分な時間であった。3走の宮本につなげたのは優勝が決まる4分前、アメリカにはすでに1周遅れになっていた。しかし宮本、金子とベストに近いレースをし、金子が最後の数レッグをスロベニアと競い合い、19位をものにした。アメリカは日本と70分差の17位であった。

男子チームには記録が残らなかった。しかし、記憶には残った。私たちの、いや他の国々の記憶にも残ったはずである。十分に闘えるチームに育っていると。

女子チームには2回続けて記録が残った。2人がベストに近いレースができた。次は4人がしっかりと走ろう。

またたくさんの宿題が残った。が、今度の宿題は解くのが楽しみである。

## リレー3走

### 最後の世界選手権大会を走って

宮本知江子

前日のミーティングで6.5kmのコース距離のうちにタッチゾーンからスタートまでの誘導距離約650mも含まれることが分かった。実際OLをするのは最終ポストからの誘導ものぞくと、5.5km程度しかないかもしれないというわけだ。

レースは予想したとおりの速い展開となった。トップのスウェーデンは42分台で1走がゴールした。日本女子チームの1走、木植さんは少しミスをしたためわずかな差で最下位となってしまった。しかし、ショートの結果から分析したかぎりでは、スロベニアやスペインには勝てる信じ、福士さんの帰りを待った。彼女もまた遅れた。20位までのチームがスタートして25分程度して彼女が帰ってきた。私も2年前は大きくミスしたものだ、落ち着こうと言い聞かせながらスタート。ちょうど直前にアメリカの4走、クリスチ・リーが出走して行った。その後ろ姿をただ追った。地図を見た瞬間①までの1.5km程もあるうかと思われるロングレッグが目に飛び込んで非常に不安になる。スタートまでの誘導の間は心を落ち着かせるだけで、地図をほとんど読むことはできなかった。でも誘導が終わったときには非常に冷静な目で地図を追っていた。あまりスピードは出ないが、着実なOLで①をチェックした後はショートレッグの連続。得意のコンパスワークと歩測で各国の4走と併走できた。⑥-⑦のミドルレッグを走っていると3走のゼッケンが見えた。スペインだ。スタートで大きく差があったはずなのに、ラッキー。このままスロベニアやアイルランドも落ちてきてくれたら……、などと考える暇はその時にはなかった。ただもう最下位ではないと自信が持てた。半ばからのミドルレッグでは、さすがに少しミスが続いて、(4走の)彼女たちとのスピードの差がここで出るのかと感じさせられた。

終盤近くの⑧で、再びクリスチ・リーを見て、いい調子で走れているのかなあとちょっと思ったが、その後のミスのためゴールでは5分くらい離されてしまったらしい。あの2年前には僅差で競ったアメリカに1周以上遅れるとは不覚。それでも4走の金子さんの力走もあってスロベニアをかわすことができ、21チーム中19位。4人がベストで走っても18位のアイルランドにしか追いつけないことを考えると、壁の厚さを感じた。でもでも、私にとって最後の世界選手権でのレースとなったリレー3走は、気持ちよく駆け抜けられたことは事実です。

## リレーを走って

鹿島田浩二

会場についたのは8時半、スタートの30分前だった。天気は悪くないが、とても冷え込む。襟を立てて丸くなりながらスタートエリアへ向かう。まず、会場全体のレイアウトを把握し、続いて最終コントロールを見に行く。つまらないことのようであるが、レース前に1つでもコントロールが分かっていると得した気分になるものだ。

スタート地区に戻ると村越さんもアップを終えて戻っていた。いよいよスタートである。昨年と同じように無言の握手を交わした。9時ちょうど、一斉にスタートする。村越さんはいつもと同じように後ろの方を走っていった。

いつもより多めのアップを済ませて戻ってきたのは9時45分であった。H i D i (山本)が「結構速いよ。もうトップは第2ラジコンを通過した」と教えてくれた。だいぶペースが速いようだ。急いで下着を替えてトリムを着た。村越さんも順調にラジコンを通過する。9時53分、トップのエストニアがタッチ、そして4分45秒後、大集団の中で村越さんは帰ってきた。

フランスとハンガリーを前に見ながらスタートフラッグまで走る。①は慎重にアタックして無難にチェック。②へのロングレッグではいろいろな国がいた。地図でしっかりと現在位置を把握しつつ、周りのペースを利用してスピードを上げる。が、その後がいけなかった。③で不用意なアタックをして1分ほどのミスを犯す。あっという間に人の気配は消えてしまった。しかし諦めてはいけない。その後③までにニュージーランド、エストニア、ハンガリーと次々と現れた。パックで④、⑤と進み、ハイペースに何とかついていく。⑥では集団につられたエストニアが脱落。その後追いついてきたドイツを加えた4ヶ国が見え隠れつのレースをしばらく展開する。⑨でコントロールの遠かったハンガリーがまず脱落、荒っぽいOLをするドイツは⑫のミスで脱落。最後まで競っていたニュージーランドは⑭の手前で突然止まって地図を読み始めた。ここぞとばかり出し抜いて、そのまま逃げきってゴールレーンを駆け抜ける。

一所懸命走ると目をつむってしまう癖がある。だから異常に気づいたのはタッチゾーン直前だった。クーニー(国沢)がいない。いや、いた。ジャンバーを上下まとった姿で。すぐに村越さんが現れ、ゴールする僕を抱きかかるようにして迎えた。「すまん」。村越さんの言葉ですべてを察知した。

日本の男子チームは結果を残せるだけのレベルにある。だからそういう意味では、今回成績を残せなかつたのは残念である。誰もが、もし3、4走とつないでいたらと、想像してしまうに違いない。でも、そんな想像をしたくなってしまうような走りを2走までできたことが、今回の大きな成果なのではないだろうか。3、4走のクーニーや入江の走りが見られなかつたのは残念であるけれど、チェコでの一応の成功が確かなものであったことが分かっただけでも大きな成果ではないか。

村越さんは2年後も走ると固く約束してくれた。ドイツのWOCがますます楽しみである。

## 女子チームの結果を総括して

女子コーチ 山岸倫也

たった4年前のスウェーデンの世界選手権では、レースに臨む選手の不安を打ち消し、レースの結果から肯定的な部分を見つけだすのが大仕事だった。2年前のチェコでは、外国テライン用のいわば「よそいき」の方法論がそんなにむずかしくないと思えるようになった。そして今回は、選手全員が日本と同じようにレースをし、日本と同じように成功し、ミスをしていた。なんという進歩だろうか。コーチとして驚かざるを得ない。もちろんまだまだ私たちは、ようやく真のスタートラインについたばかりだし、山などの課題がある。しかし私たちは、その課題のほとんどを、日本のテラインで、日本のレースで解決することができるようになっているのである。

さて、個々のレースについて検討しよう。まずはショートから。私たちにどってもっとも可能性を感じさせるレースがショートである。木植、宮本、福士の決勝Aボーダーまでのタイムは2~4分と、あと少しだ。このタイムを縮めるためには、スピードもだけでなく、手続きをもう一度見直す必要がある。自分の方法論（モデル）を組み立て、それをできる限り素早く実行するトレーニングが必須であろう。ショートは1万分の1の地図を採用したこととウイニングタイムが20分台に近づいたことで、「素早い方向決定能力」というその特性が顕著になってきた。決勝でも福士と宮本はほぼベストのレースができた。

クラシカルは距離自体は短くなつて、ロングレッグにおけるルートプランニングとナビゲーション能力を問うという特性が強くなっている。ナビゲーション能力とは、プランしたルート通りに現地をト雷斯する能力のことと、ラフな区間でもスピードを落とさずに地図を読む能力が要求される。こうした技術をトレーニングすることは、現状ではかなりむずかしく、ロングレッグの課題が与えられると選手は、特徴物から特徴物へとアタックを繰り返しながら進むという非効率的でいやになるくらい遅い手順を踏むことになる。この問題の解決にも方法論（モデル）を明確に組み立てることが必須だが、実践の場が限られているのでこれからもしばらくは苦労しそうだ。木植は持ち前のすぐれたナビゲーション能力で可能性を見せてくれたが、福士は言葉では言い表せないくらい苦労したに違いない。ロングレッグに対する準備不足の責はコーチにある。いずれにしても、クラシックに挑戦し、結果を残すのにはもうしばらく時間がかかりそうだ。

リレーはチームとしてもっとも力を入れた種目である。前回完走できただけでなく最下位を脱出しておらず、今回はどれだけ前の集団に近づけるかが目標であった。結果としては、1走の木植は最下位ながらも集団で帰つてこれたし、2走の福士がロングレッグでアタックしてから現在位置をロストするという手痛いミスをおかして大きく遅れたが（このミスもロングレッグでのミスなので今回の準備状態から考えると仕方がない）、宮本がスペインを、金子がスロベニアを抜いて19位、実力通りの結果だろう。もし福士が3人と同レベルのタイムでまとめたとしても、順位的には18位になれるかどうか。19位のアイルランドと17位のアメリカとは40分（すなわち1人10分）もの差があることを考えると私たちの次の目標は4人が力を出し切ったレースをしてアイルランドと僅差のレースをすることだろう。

## 男子チームの結果を総括して

男子コーチ 村越 真

チームが世代交代する時期には、チームは頼りなく見えるものである。まだ自信をつけていない新人、純粋な熱意は冷めかけているベテランたち。それを小さい谷間で乗り切ることができれば、次には大きな飛躍の可能性が待っている。こうした時期には結果ではなく、どんなレースができたかが重要な指標となる。

ショートの予選では全員が目標を達成できなかった。私自身はいいレースができたが、それだけでは予選は通過できないのだ。しかし決勝Cでの鹿島田、入江、国沢はほぼもっている力を出し切ったと言える。初出場の入江がトップと4分差でレースを走りきったことは特筆に値する。オリエンテーリングを初めて2年3ヶ月でWOC選手の座を掴んだことは決してまぐれではなく、その類いまれなセンスによって掴んだものであることを自身証明したレースであった。

クラシカルに関しては順位こそ後退したが、参加国と選手数が増えるなか鹿島田の59位は健闘だし、必ずしも準備が十分でないなかでの国沢の74位も実力を出し切ったと言えるだろう。これより上の順位をとることは、今後も容易なことではないが、距離に慣れる環境を国内でも作っていくことでより上の順位を狙っていきたい。

リレーに関しては、1走で走った私が14番コントロールで別のコントロールでパンチするというリレーではならないミスを犯し、2走の鹿島田までしか走ることができなかった。結果としての失格よりも、可能性のある若い選手の機会を奪ってしまったことは非常に残念なことである。今後しばらくは「お詫び奉公」をすることになるだろうが、「負債を背負う」というような意識は持たず走っていきたい。内容的に見れば私も鹿島田も最高のできだったと言える。2走が終わった段階でトップと10分差の13位にあたる位置はここ10年間では最高である。中堅国の間で競うスピードと戦術はほぼ確立されたと言える。2人とも集団の中で、正確さとスピードのバランスを微妙にとるスピーディーなレースができた。

各競技種目のコースプランニングはそれぞれ独自のコンセプトをもっていた今回のWOCでは、私たちの弱点や課題がどこにあるかをレースの結果から読み取ることができる。技術的な課題はかなりの程度解決されている。より高いスピードでの正確なオリエンテーリング、長い距離を最後まで積極的に走りきることが今後の課題である。それは私たちの努力だけでなく国内の競技環境全体の課題でもある。

全体を総括してみると、近年まれにみる実力を出し切れたWOCと言えるだろう。それは、選手たちが日本でやるオリエンテーリングの延長で競技に臨んだことと無縁ではない。私たちは87年くらいから、「日本のオリエンテーリングも海外のオリエンテーリングも方法論に差はない。地図読みには慣れが必要だが、基本的なやり方においては違ひはないのだ」と繰り返し主張してきた。その主張が選手の間に根づいてきたのだ。特別なことをしなければならないと精神的に動揺したり、日本でやっているのとは違うことをして失敗したりはしなかった。これが今回の大きな収穫と言えるだろう。

## WOCと国際的な オリエンテーリング・シーンへの展望

村越 真

満足するレースをすることは自信を深め、また次のレースへの喜びを増やしてくれる。その点ではまずまずの評価のできる今回のWOCであった。しかし世界的に努力を認められ、そして内外のオリエンティアに対する訴求力を持つには結果を出すことが必要なのだ。評価できる結果を挙げることによって、直接語ることのできない人たちにも大きな刺激とやる気を与えてゆくことができる。今後結果を出してゆくためには、私たちは何をしてゆけばいいのだろうか？

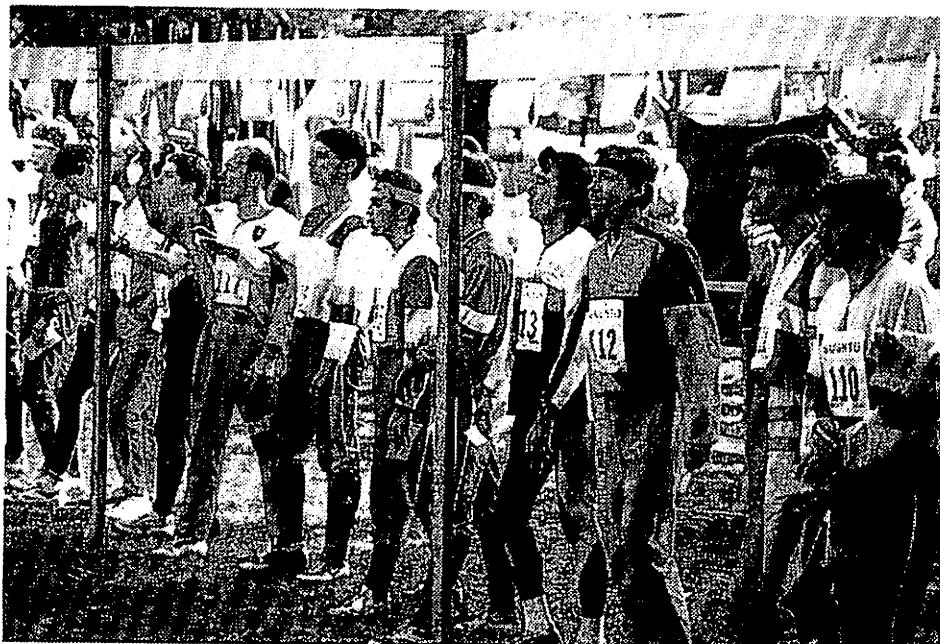
結果への準備が整ってきつつあるのは男子のショートとリレー、そして女子のショートである。男子が近い将来2名のショート予選通過選手を出すことはさほど遠い目標ではない。私たちが一歩でも現在地点から先に進んだとしたらごく当たり前の結果としてそれが待ち受けているだろう。リレーでも中堅国の一員としてレースをする準備はできた。次回はこれをきっちりと形にしたい。女子に関しては、ショートで予選通過の可能性を感じさせる順位を取ることが課題であろう。現時点ではショートがもっとも可能性を感じさせる競技なのだから。リレーの成績向上も、その延長線上にあるだろう。

課題の解決は、選手個人だけの問題ではない。そこには自ずから限界がある。競技力の向上は組織的に解決してゆかなければならぬ問題である。イギリスは10年以上前から戦略的に若手を育成し、また選手もスウェーデンに住みトレーニングするなどの努力を続けてきた。今回のWOCで女子のイベットが個人戦3位、そして男子がリレーで2位という快挙を成し遂げた背景にはこうした努力があったのだ。ナショナル・チームレベルでの長期的な視点にたった戦略的な選手育成、大会のシステムやコントロールといったトータルな努力は、私たちにも成功をもたらす可能性を与えてくれるだろう。

ところで世界選手権といえば、世界一のオリエンティアを決める場という面が強調されるが、同時にIOFの今後の動きを決める重要な公式、非公式の情報交換が行われう場もある。競技の裏では連盟会長のミーティングやワールドカップその他の委員会の会議などが行われる。その場でIOFの将来プランが議論されたり、各連盟の意向がIOFに伝えられたりするのだ。こうした面でも、私たち日本のオリエンテーリング界は世界の舞台に上がらなければいけない時期に来ている。IOFの幹部やワールドカップワーキンググループのメンバーに会う度に「WOCしないの？」、「WCをする準備はないのか？」といった質問をされる。競技にこれだけ熱心で組織的な運営のノウハウを持つ国この沈黙は不可解で不気味ですらある。私たちのなかにある国際的な大会を開催したいという気持ちを自分たちから現実の動きに変えて、初めて国際的に認められるのだ。

そのためには情報収集が必要である。たとえばワールドカップについて見てみると、96年はヨーロッパ以外の国での開催が望まれなかっただし、ひょっとすると98年は地区予選の制度に変わるかもしれない。こうした情報を積極的に収集し、世界の流れを読んでいかない限り選手権クラスの大会の開催は難しい。

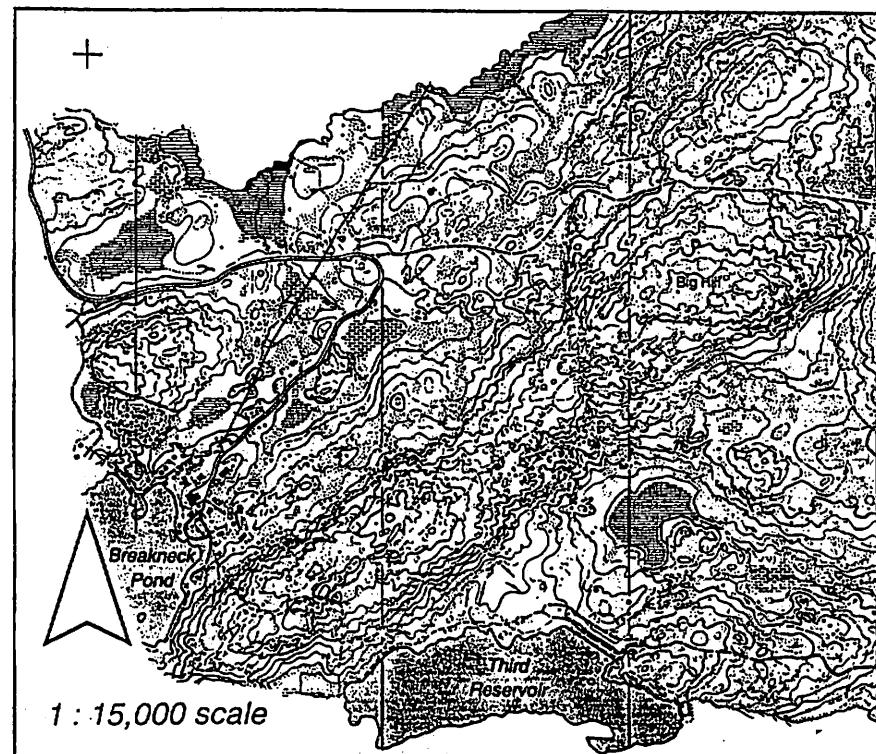
もちろん最初からこうした大会を開催しようと気張る必要はない。国際大会なんて簡単に開けるのだ。重要なことは定期的に大会を開催し、「この時期なら日本に国際大会がある」という評判を立て、また大会開催で蓄積されたノウハウや情報網を選手権クラスの大会開催につなげていくことだ。組織・大会運営面でもお客様から脱したいものである。



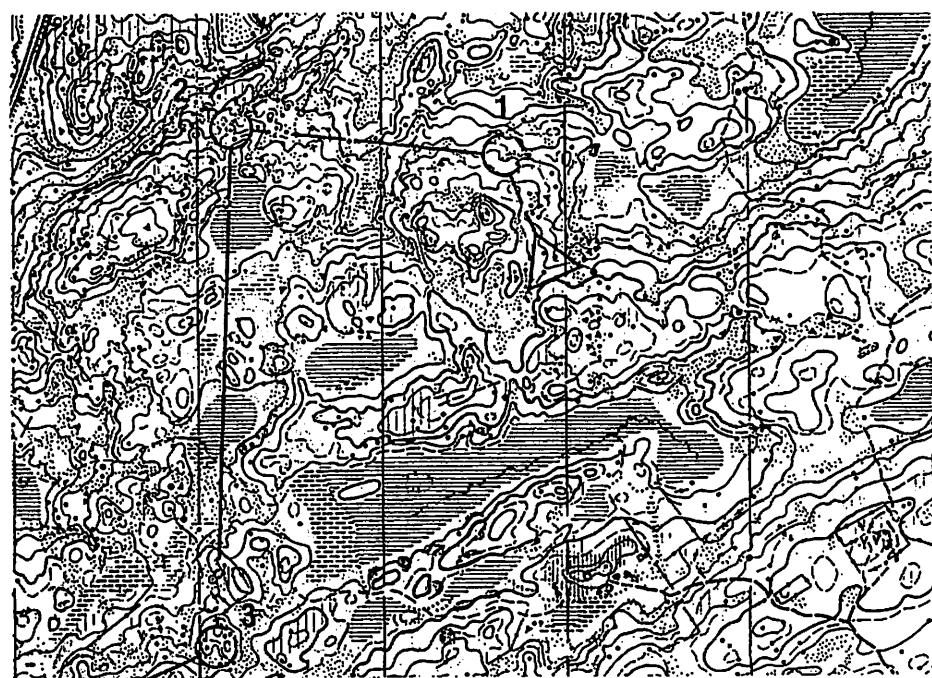
男子リレーのスタート

### 国名略号一覧

A U S	オーストラリア	F R A	フランス	N O R	ノルウェー
A U T	オーストリア	G B R	イギリス	N Z L	ニュージーランド
B E L	ベルギー	G E R	ドイツ	P O L	ポーランド
B L R	ベラルーシ	H U N	ハンガリー	R O M	ルーマニア
B U L	ブルガリア	I R L	アイルランド	R S A	南アフリカ
C A N	カナダ	I S R	イスラエル	S L O	スロベニア
C R O	クロアチア	I T A	イタリア	S U I	スイス
D E N	デンマーク	J P N	日本	S V K	スロバキア
E S P	スペイン	L A T	ラトビア	S W E	スウェーデン
E S T	エストニア	L T U	リトアニア	T C H	チェコ
F I N	フィンランド	N E D	オランダ	U S A	アメリカ合衆国



1 : 15000 のモデルマップ



1 : 10000 のショート決勝のマップ

今回の世界選手権では2種類の縮尺の地図が用いられました。  
2枚の地図を見比べてみてください。

# 世界選手権大会レース全成績

## ショート予選

(男子は4.360-4.420km, 180-185m, 女子は3.370-3.460km, 120-135m)

### 男子A組

1 P. Thoresen	NOR	24.08
2 C. Terkelsen	DEN	24.13
3 K. Parkkinen	FIN	24.29
4 M. Stockmayer	AUT	25.04
5 A. Rautiainen	SWE	25.14
6 A. Landels	NZL	25.27
7 S. Sibilev	RUS	25.31
8 L. Zridkavesely	TCH	25.41
9 U. Fluhmann	SUI	25.56
10 J. Ozolins	LAT	26.14
11 R. Ottesson	EST	26.15
12 S. Craig	AUS	26.34
13 J. Musgrave	GBR	25.54
14 B. Edwards	IRL	28.24
15 O. Coupat	FRA	28.36
16 F. Falardeau	CAN	28.44
17 J. Wallner	SVK	29.36
18 P. Horvath	HUN	30.11
19 I. Zvontsov	BLR	30.17
20 M. Thierolf	GER	30.28
21 K. Kashimada	JPN	30.49
22 P. Djambazov	BUL	32.12
23 M. Eglinski	USA	32.49
24 T. Lamury	BEL	32.55
25 B. Jevsevar	SLO	35.59
26 A. Salkauskas	LTU	37.23
27 M. Szczurek	POL	37.34
28 A. Winner	ISR	39.35
29 J. Garde	ESP	30.46
30 I. Nagy	ROM	42.24
31 S. Kench	RSA	45.15
32 K. Gobec	CRO	48.36

### 男子B組

1 P. Forsman	FIN	23.45
2 J. Martensson	SWE	24.10
3 J. Tvedt	NOR	25.03
4 G. Pavlovics	HUN	25.56
5 R. Odum	DEN	26.03
6 I. Zagars	LAT	26.07
7 S. Nicholson	GBR	26.47
8 J. Davis	AUS	26.49
9 C. Aebersold	SUI	26.55
10 Z. Zuzanek	TCH	27.04
11 S. Murakoshi	JPN	27.33
12 R. Breckle	GER	27.42
13 P. Corona	ITA	27.59
14 J. Porzycz	POL	28.29
15 B. May	CAN	28.41
16 V. Lukianov	RUS	28.42
17 L. Haldna	EST	28.53
18 Y. Deville	FRA	29.53
19 M. Danovski	BUL	29.59
20 D. Ashmore	NZL	31.06
21 H. Petit	BEL	32.07
22 E. Voveris	LTU	32.07
23 J. Logue	IRL	32.39
24 G. Anderluh	SLO	33.47
25 R. Kronenfeld	ISR	34.25
26 C. Childs	USA	35.22
27 R. Arbter	AUT	35.56
28 D. Gobec	CRO	37.55
29 A. Revesz	ROM	40.21
30 A. Rojas	ESP	42.09
31 S. Natalewitch	BLR	42.16
32 R. Siegenthaler	RSA	69.55

## 男子 C 組

1 M. Kuisma	FIN 23.48
2 M. Johansson	SWE 24.14
3 T. Prokes	TCH 24.49
4 S. Palmer	GBR 24.51
5 V. Armalis	LTU 25.15
6 J. Pollak	SVK 25.19
7 A. Leiboms	LAT 25.20
8 R. Jessop	NZL 25.23
9 T. Avaste	EST 25.31
10 R. Vestre	NOR 25.38
11 D. Humbel	SUI 25.40
12 M. Brantner	AUT 25.40
13 T. Nielsen	DEN 26.07
14 J. Giroux	FRA 26.30
15 F. Viniczai	HUN 26.40
16 S. Wozniak	POL 26.46
17 W. Key	AUS 27.36
18 D. Sacchet	ITA 28.01
19 L. Halder	GER 28.23
20 D. Goossens	BEL 29.34
21 I. Kunisawa	JPN 30.08
22 B. Graham	CAN 30.08
23 I. Marchiotti	CRO 31.31
24 V. Kozlov	RUS 32.24
25 J. Scarborough	USA 32.37
26 D. Lebar	SLO 35.50
27 M. Veres	ROM 36.46
28 I. Iakowkin	BLR 37.20
29 S. Linton	IRL 37.56
30 V. Serdarov	BUL 44.58
31 J. Garin	ESP 48.19
32 C. Dutkiewicz	RSA 51.33

## 男子 D 組

1 T. Karppinen	FIN 23.34
2 S. Hale	GBR 24.27
3 H. Tveite	NOR 25.09
4 P. Vavrys	TCH 25.36
5 P. Ek	SWE 25.38
6 A. Frank	AUT 27.57
7 V. Gipas	LTU 28.06
8 I. Nagy	HUN 28.12
9 I. Gusev	RUS 28.28
10 M. Platt	USA 28.44
11 A. Grende	LAT 28.58
12 A. Luckmann	GER 29.28
13 J. Feehan	IRL 29.39
14 A. Mogensen	DEN 30.38
15 A. Berger	SUI 30.43
16 G. Kartalov	BUL 31.34
17 B. Bauman	SLO 32.11
18 P. Barcik	SVK 32.44
19 E. Wymer	AUS 32.49
20 G. Perrin	FRA 33.05
21 C. Seligy	CAN 33.32
22 T. Yoshida	JPN 33.45
23 M. Moldovan	ROM 33.52
24 A. Anton	EST 34.16
25 J. Bernal	ESP 36.04
26 M. Depaue	BEL 37.45
27 T. Kaniski	CRO 38.54
28 R. Pradel	ITA 41.02
29 G. Barbour	NZL 42.21
30 M. Heikoop	NED 49.44
31 I. Bratt	RSA 63.19
A. Korolewitch	BLR Disqualified

**男子E組**

1 S.Sild	EST 24.48
2 T.Buhrer	SUI 24.52
3 V.Alexeev	RUS 24.56
4 F.Jorgensen	DEN 25.16
5 Z.Lantos	HUN 25.24
6 M.Bagness	GBR 25.34
7 J.Bjorlo	NOR 25.44
8 S.Toussaint	FRA 26.01
9 K.Olsson	SWE 26.20
10 R.Banach	POL 27.13
11 M.Bostrom	FIN 27.23
12 D.Santa	ITA 27.30
13 I.Vis	BEL 27.33
14 A.Bartkevicius	LTU 27.35
15 J.Brautigam	USA 28.09
16 C.O'Halloran	IRL 29.01
17 P.Kozak	TCH 29.18
18 O.Duca	ROM 29.23
19 M.Pardoe	CAN 29.48
20 G.Bluett	AUS 29.50
21 G.Mooiman	NED 30.42
22 F.Gassner	AUT 32.41
23 A.Salguero	ESP 32.49
24 T.Irie	JPN 33.41
25 J.Chupek	SVK 33.57
26 A.Atanasov	BUL 34.54
27 M.Theissen	GER 36.20
28 D.Farquhar	NZL 36.31
29 I.Tisljar	CRO 37.14
30 A.Poljasek	SLO 37.51
31 C.Ogilvie	RSA 62.46

**女子A組**

1 K.Olah	HUN 21.15
2 E.Koskivaara	FIN 21.33
3 A.Bogren	SWE 22.02
4 T.Norgaard	DEN 23.08
5 I.Mikhalko	RUS 23.40
6 H.Dolezelova	TCH 23.56
7 V.Konig	SUI 24.34
8 K.Kaljus	EST 24.38
9 D.Girinskaite	LTU 24.45
10 C.Kunzel	AUT 24.48
11 W.Karger	GER 25.16
12 N.Taws	AUS 25.37
13 P.Genova	BUL 26.00
14 J.Cory-Wright	GBR 26.09
15 M.Gelderman	NZL 26.22
16 J.Soulard	FRA 26.46
17 H.Staff	NOR 27.28
18 S.Kiue	JPN 28.56
19 D.Newell	USA 29.07
20 B.Williamson	RSA 32.27
21 E.Maturana	ESP 35.15
22 E.Morrish	IRL 35.43
23 A.Hribar	SLO 37.30

**女子B組**

1 M.Jansson	SWE 22.11
2 F.Schmitt	GER 22.41
3 Y.Hague	GBR 22.59
4 C.Thrane	DEN 23.44
5 B.Wolf	SUI 24.10
6 H.Standstad	NOR 24.33
7 A.Piolat-Manci	FRA 24.38
8 B.baczek	POL 25.18
9 M.Honzova	TCH 25.34
10 R.Kolkkala	FIN 26.13
11 P.James	CAN 26.18
12 I.Namovira	LAT 27.24
13 N.Rudakova	RUS 28.05
14 I.Petrova	BUL 28.10
15 E.Viner	AUS 29.18
16 A.Markunaite	LTU 29.25
17 C.Miyamoto	JPN 29.42
18 S.Stripp	USA 30.23
19 A.Horvath	HUN 32.02
20 J.Browne	NZL 34.25
21 I.Bravc	SLO 37.01
22 E.Loughman	IRL 37.30

**女子C組**

1 A. Nilsson	SWE	22.44
2 K. Tiira	FIN	23.30
3 M. Romanens	SUI	23.31
4 A. Abola	LAT	23.39
5 T. Jaksanova	RUS	24.45
5 H. Finke	GER	25.07
7 R. Andersen	NOR	25.10
8 H. Monro	GBR	25.45
9 L. Hansen	DEN	25.21
10 I. Kovacs	HUN	27.06
11 P. Novotna	TCH	27.07
12 L. Marion	SLO	27.47
13 P. Nikolova	BUL	28.06
14 G. Macken	AUS	28.36
15 K. Fettes	NZL	28.55
16 M. Palcau	FRA	29.30
17 P. Dickison	USA	30.35
18 C. Hagen	CAN	31.55
19 S. Kaneko	JPN	34.30
20 I. Veiknyte	LTU	36.32
21 M. Lahoz	ESP	38.14
22 D. Cunnane	IRL	41.19

**女子E組**

1 S. Fesseler	SUI	22.08
2 J. Tiira	FIN	22.22
3 C. Blomqvist	SWE	23.09
4 A. Hogseth	NOR	23.27
5 L. Simson	AUS	24.29
6 K. Federer	USA	24.35
7 G. Mikaitiene	LTU	26.05
8 S. Rodiere	FRA	26.49
9 J. Cieslarova	TCH	26.57
10 C. Grondahl	DEN	27.15
11 K. Stratz	GER	27.34
12 P. Milusheva	BUL	27.42
13 Z. Abzalone	LAT	28.42
14 R. Toth	HUN	29.09
15 L. Bohm	AUT	29.14
16 Y. Fukushi	JPN	29.46
17 J. Cleary	IRL	32.55
18 T. Robinson	NZL	33.38
19 A. Papkova	RUS	35.39
20 A. Pribakkovic	SLO	35.42
21 L. Eades	GBR	37.20
22 N. Punek	CRO	37.29
23 M. Osma	ESP	41.47

**女子D組**

1 M. Skogum	SWE	21.58
2 T. Fossli	NOR	22.27
3 A. Viilo	FIN	23.17
4 M. Kubatkiva	TCH	23.41
5 K. Lovasi	HUN	24.03
6 J. James	GBR	24.26
7 A. Gornicka	POL	24.45
8 N. Akstiniene	LTU	25.06
9 U. Ornhagen	DEN	25.37
10 S. Rakhimowa	RUS	25.59
11 L. Coupat	FRA	26.44
12 A. Tamasauska	LAT	26.52
13 U. Oehy	SUI	27.22
14 K. Renger	GER	27.52
15 T. Kamenarova	BUL	28.22
16 C. Lee	USA	28.29
17 A. Feaver	AUS	30.22
18 A. Stone	NZL	32.54
19 U. Creagh	IRL	32.58
20 I. Liberdova	SVK	34.26
21 H. Watanabe	JPN	34.45
22 M. Bedekovic	CRO	43.40
23 D. Rabadan	ESP	49.07

## ショート決勝

### 男子 A (4.745km, 135m)

1 P. Thoresen	NOR	22.34	46 M. Stockmayer	AUT	28.34
2 T. Karppinen	FIN	23.00	47 P. Fersman	FIN	29.52
3 M. Johansson	SWE	23.26	48 Z. Lantos	HUM	32.06
4 J. Tvedt	NOR	23.27	49 M. Platt	USA	32.15
5 S. Hale	GBR	23.27	Z. Zuzanek	TCH	Not starting
6 J. Martensson	SWE	23.38			
7 A. Rautiainen	SWE	23.40			
8 K. BJORLO	NOR	23.41			
9 H. Tveite	NOR	23.42			
10 C. Terkelsen	DEN	23.45			
11 K. Olsson	SWE	23.47			
12 P. Ek	SWE	23.49			
13 R. Vestre	NOR	24.02			
14 U. Fluhmann	SUI	24.07			
15 A. Leiboms	LAT	24.07			
16 T. Bührer	SUI	24.10			
17 V. Armalis	LTU	24.30			
18 S. Palmer	GBR	24.31			
19 K. Parkkinen	FIN	24.43			
20 S. Sild	EST	24.53			
21 I. Zagars	LAT	24.57			
22 F. Jorgensen	DEN	25.07			
23 M. Kuisma	FIN	25.11			
24 V. Alexeev	RUS	25.40			
25 T. Avaste	EST	25.42			
26 I. Gusev	RUS	24.43			
27 C. Aebersold	SUI	25.48			
28 R. Jessop	NZL	25.49			
29 J. Pollak	SVK	25.49			
30 S. Toussaint	FRA	25.51			
31 P. Vavrys	TCH	25.52			
32 T. Prokes	TCH	25.54			
33 A. Landels	NZL	25.57			
34 V. Gipas	LTU	26.02			
35 M. Bagness	GBR	26.10			
36 J. Ozolins	LAT	26.36			
37 S. Sibilev	RUS	26.36			
38 G. Pavlovics	HUN	26.37			
39 R. Odum	DEN	26.43			
40 S. Nicholson	GBR	27.01			
41 A. Frank	AUT	27.33			
42 J. Davis	AUS	27.50			
43 L. Zridkavesely	TCH	28.02			
44 I. Nagy	HUN	28.03			
45 R. Banach	POL	28.28			

**男子 B (4.700km, 130m)**

1 O. Coupat	FRA	23.01	46 J. Musgreve	GBR	31.47
2 A. Berger	SUI	23.17	47 D. Ashmore	NZL	32.32
3 M. Bostrom	FIN	24.01	48 P. Corona	ITA	35.30
4 T. Nielsen	DEN	24.21	L. Haldna	EST	Not starting
5 D. Humbel	SUI	24.21	R. Ottesson	EST	Not starting
6 A. Grende	LAT	24.23			
7 J. Giroux	FRA	24.26			
8 P. Kozak	TCH	24.42			
9 F. Viniczai	HUN	24.46			
10 S. Craig	AUS	24.59			
11 A. Luckmann	GER	25.17			
12 R. Breckle	GER	25.19			
13 P. Barcik	SVK	25.27			
14 J. Porzycz	POL	25.29			
15 M. Brantner	AUT	25.45			
16 J. Wallner	SVK	25.51			
17 V. Lukianov	RUS	26.08			
18 G. Kartalov	BUL	26.08			
19 W. Key	AUS	26.21			
20 D. Sacchet	ITA	26.44			
21 A. Mogensen	DEN	26.44			
22 B. May	CAN	26.46			
23 G. Bluett	AUS	26.47			
24 M. Thierolf	GER	26.49			
25 J. Feehan	IRL	27.07			
26 G. Perrin	FRA	27.10			
27 S. Wozniak	POL	27.29			
28 B. Edwards	IRL	27.34			
29 B. Bauman	SLO	27.38			
30 E. Wymer	AUS	27.54			
31 O. Duca	ROM	27.59			
32 M. Danovski	BUL	28.06			
33 S. Murakoshi	JPN	28.23			
34 D. Santa	ITA	28.31			
35 Y. Deville	FRA	28.40			
36 J. Brautigam	USA	28.42			
37 C. O'Halloran	IRL	28.54			
38 I. Vis	BEL	29.20			
39 L. Halder	GER	29.33			
40 M. Pardoe	CAN	30.30			
41 F. Falardeau	CAN	30.31			
42 D. Goossens	BEL	30.49			
43 A. Bartkevicius	LTU	30.54			
44 I. Zvontsov	BLR	31.09			
45 P. Horvath	HUN	31.22			

**男子 C (4.405km, 135m)**

1 E. Voveris	LTU	23.00	45 A. Revesz	ROM	35.36
2 B. Graham	CAN	24.46	46 A. Korolewitch	BLR	36.14
3 M. Szczurek	POL	24.49	47 K. Gobec	CRO	36.15
4 J. Chupek	SVK	25.31	48 I. Nagy	ROM	36.50
5 J. Logue	IRL	25.37	49 J. Garde	ESP	37.01
6 K. Kashimada	JPN	26.02	50 I. Marchiotti	CRO	37.37
7 H. Petit	BEL	26.19	51 M. Heikoop	NED	38.08
8 M. Theissen	GER	26.29	52 D. Lebar	SLO	38.10
9 R. Arbter	AUT	26.31	53 R. Pradel	ITA	39.23
10 A. Saltauskas	LTU	26.42	54 I. Bratt	RSA	44.40
11 J. Scarborough	USA	26.49	55 S. Kench	RSA	48.46
12 S. Linton	IRL	27.10	56 A. Rojas	ESP	51.11
13 T. Irie	JPN	27.10	57 C. Dutkiewicz	RSA	53.16
14 G. Barbour	NZL	27.11	58 C. Ogilvie	RSA	65.37
15 V. Serdarov	BUL	27.13			
16 A. Anton	EST	27.14			
17 G. Mooiman	NED	27.20			
18 D. Farquhar	NZL	27.23			
19 I. Kunisawa	JPN	27.45			
20 V. Kozlov	RUS	27.52			
21 C. Seligy	CAN	28.05			
22 P. Djambazov	BUL	28.09			
23 A. Salguero	ESP	28.34			
24 M. Eglinski	USA	28.49			
25 M. Moldovan	ROM	29.02			
26 T. Yoshida	JPN	29.09			
27 J. Bernal	ESP	29.14			
28 I. Iakowkin	BLR	29.34			
29 G. Anderluh	SLO	29.49			
30 B. Jevsevar	SLO	30.32			
31 T. Kaniski	CRO	30.41			
32 C. Childs	USA	30.51			
33 S. Natalewitch	BLR	31.19			
34 M. Dapaue	BEL	31.30			
35 J. Garin	ESP	31.46			
36 M. Veres	ROM	31.59			
37 A. Poljanek	SLO	32.21			
38 D. Gobec	CRO	33.20			
39 R. Kronenfeld	ISR	33.24			
40 A. Atanasov	BUL	33.29			
41 I. Tisljar	CRO	33.58			
42 T. Lamury	BEL	35.08			
43 A. Winner	ISR	35.26			
44 R. Siegenthaler	RSA	35.27			

**女子 A (3.660km, 85m)**

1 A. Bogren	SWE	20.39	46 B. Baczek	POL	31.04
2 M. Skogum	SWE	21.10	47 L. Simson	AUS	31.11
3 E. Koskivaara	FIN	21.11	48 K. Kaljus	EST	35.38
4 T. Fossli	NOR	21.47	49 K. Lovasi	HUN	42.36
5 R. Andersen	NOR	22.09	50 C. Kunzel	AUT	46.57
6 M. Jansson	SWE	22.16			
7 K. Olah	HUN	22.17			
8 K. Tiira	FIN	22.18			
9 Y. Hague	GBR	22.32			
10 R. Kolkkala	FIN	23.12			
11 H. Sandstad	NOR	23.21			
12 A. Nilsson	SWE	23.22			
13 J. Cieslarova	TCH	23.29			
14 A. Piolat-Manci	FRA	23.42			
15 I. Mikhalko	RUS	23.46			
16 B. Wolf	SUI	23.46			
17 J. Tiira	FIN	23.47			
18 S. Fesseler	SUI	23.47			
19 M. Romanens	SUI	23.49			
20 V. Konig	SUI	23.56			
21 A. Viilo	FIN	24.09			
22 U. Ornhagen	DEN	24.23			
23 D. Girinskaite	LTU	24.33			
24 M. Kubatkova	TCH	24.40			
25 J. James	GBR	24.54			
26 C. Grondahl	DEN	25.02			
27 S. Rodiere	FRA	25.11			
28 C. Thrane	DEN	25.13			
29 T. Jaksanova	RUS	25.23			
30 A. Hogseth	NOR	25.24			
31 H. Dolezelova	TCH	25.55			
32 H. Finke	GER	26.05			
33 T. Norgaard	DEN	26.21			
34 A. Gornicka	POL	26.56			
35 S. Rakhimowa	RUS	26.58			
36 A. Abola	LAT	27.39			
37 M. Honzova	TCH	27.42			
38 L. Hansen	DEN	27.47			
39 N. Akstiniene	LTU	28.03			
40 G. Mikaitiene	LTU	28.14			
41 C. Blomqvist	SWE	28.21			
42 K. Federer	USA	28.22			
43 H. Monro	GBR	29.08			
44 I. Kovacs	HUN	29.15			
45 F. Schmitt	GER	30.31			

**女子 B (3.535km, 85m)**

1 P. Novotna	TCH	23.22	46 T. Kamenarová	BUL	31.43
2 L. Coupat	FRA	23.28	47 E. Morish	IRL	33.36
3 U. Oehy	SUI	23.29	47 J. Cleary	IRL	34.46
4 P. James	CAN	23.33	49 C. Lee	USA	35.23
5 J. Soulard	FRA	23.38	50 R. Toth	HUN	35.38
6 H. Staff	NOR	23.42	51 M. Osma	ESP	35.48
7 A. Horvath	HUN	23.44	52 S. Kaneko	JPN	36.03
8 G. Macken	AUS	24.05	53 N. Punek	CRO	36.04
9 N. Rudakova	RUS	24.08	54 A. Stone	NZL	37.23
10 M. Palcau	FRA	24.13	55 H. Watanabe	JPN	38.04
11 K. Renger	GER	24.22	56 E. Maturana	ESP	40.28
12 T. Robinson	NZL	24.45	57 I. Bravc	SLO	40.29
13 P. Milusheva	BUL	24.58	58 S. Kiue	JPN	41.05
14 K. Stratz	GER	25.06	59 M. Bedekovic	CRO	51.59
15 P. Nikolova	BUL	25.36	60 D. Rabadan	ESP	62.40
16 A. Papkova	RUS	26.01	61 M. Lahoz	ESP	63.55
17 L. Marion	SLO	26.03			
18 K. Fettes	NZL	26.10			
19 I. Petrova	BUL	26.15			
20 I. Veknyte	LTU	26.18			
21 N. Taws	AUS	26.33			
22 A. Feaver	AUS	26.35			
23 Z. Abzalone	LAT	27.09			
24 L. Eades	GBR	27.17			
25 D. Newell	USA	27.19			
26 P. Dickison	USA	27.22			
27 A. Tamasauska	LAT	27.59			
28 S. Stripp	USA	28.00			
29 I. Liberdova	SVK	28.02			
30 C. Hagen	CAN	28.11			
31 J. Browne	NZL	28.21			
32 L. Bohm	AUT	28.32			
33 M. Gelderman	NZL	29.03			
34 A. Hriber	SLO	29.14			
35 A. Pribakkovic	SLO	29.22			
36 Y. Fukushi	JPN	29.22			
37 J. Cory-Wright	GBR	29.23			
38 E. Viner	AUS	29.34			
39 E. Loughman	IRL	29.37			
40 U. Creagh	IRL	29.38			
41 C. Moyamoto	JPN	29.38			
42 D. Cunnane	IRL	29.40			
43 I. Namovira	LAT	29.41			
44 B. Williamson	RSA	30.35			
45 A. Markunaite	LTU	30.56			

# クラシック決勝

男子 (13.475km, 690m)

1 A. Mogensen	DEN	87.36	46 J. Davis	AUS	108.43
2 J. Martensson	SWE	88.07	47 P. Barcik	SVK	109.12
3 P. Thoresen	NOR	89.28	48 S. Sibilev	RUS	109.27
4 K. Olsson	SWE	90.18	49 G. Perrin	FRA	109.51
5 R. Vestre	NOR	90.36	50 S. Linton	IRL	110.38
6 D. Humber	SUI	90.51	51 S. Wozniak	POL	111.03
7 T. Karppinen	FIN	91.20	52 F. Gassner	AUT	111.04
8 M. Johansson	SWE	91.21	53 O. Duca	ROM	112.25
9 F. Jorgensen	DEN	91.39	54 Z. Lantos	HUN	112.27
10 M. Kuisma	FIN	91.54	55 M. Moldovan	ROM	113.01
11 J. Tvedt	NOR	92.16	56 T. Avaste	EST	113.12
12 T. Prokes	TCH	93.05	57 V. Lukianov	RUS	115.07
13 A. Rautiainen	SWE	93.14	58 K. Kashimada	JPN	115.47
14 A. Grende	LAT	93.23	59 R. Breckle	GER	115.50
15 S. Palmer	GBR	94.37	60 J. Brautigam	USA	116.18
16 G. Pavlovics	HUN	94.48	61 A. Anton	EST	117.18
17 P. Kozak	TCH	95.23	62 L. Zridkavesely	TCH	117.49
18 C. Terkelsen	DEN	95.34	63 D. Goossens	BEL	117.58
19 C. Aebersold	SUI	95.41	64 G. Anderluh	SLO	118.36
20 M. Brantner	AUT	96.08	65 P. Djambazov	BUL	120.09
21 K. Parkkinen	FIN	96.16	66 G. Barbour	NZL	120.24
22 S. Sild	EST	96.31	67 I. Tisljar	CRO	120.37
23 S. Nicholson	GBR	97.11	68 A. Luckmann	GER	123.19
24 U. Fluhmann	SUI	97.16	69 G. Kartalov	BUL	123.51
25 E. Voveris	LTU	97.30	70 I. Zvontsov	BLR	125.11
26 H. Tveite	NOR	97.40	71 J. Scarborough	USA	125.32
27 V. Kozlov	RUS	97.45	72 B. May	CAN	126.06
28 S. Hale	GBR	97.55	73 I. Kunisawa	JPN	127.08
29 V. Alexeev	RUS	98.24	74 M. Platt	USA	127.28
30 J. Pollak	SVK	98.59	75 C. O'Halloran	IRL	128.47
31 P. Vavrys	TCH	99.01	76 R. Jessop	NZL	129.13
32 A. Leiboms	LAT	99.11	77 B. Jevsevar	SLO	132.26
33 A. Berger	SUI	99.15	78 A. Salguero	ESP	134.01
34 J. Giroux	FRA	99.34	79 C. Childs	USA	135.10
35 B. Graham	CAN	99.39	80 I. Vis	BEL	135.51
36 M. Thierolf	GER	99.55	81 D. Santa	ITA	136.37
37 A. Landels	NZL	100.15	82 G. Mooiman	NED	136.53
38 I. Zagars	LAT	100.46	83 R. Pradel	ITA	142.59
39 V. Armalis	LTU	101.25	84 R. Kronenfeld	ISR	179.17
40 F. Viniczai	HUN	102.34	85 I. Bratt	RSA	213.12
41 M. Danovski	BUL	102.34	R. Ottesson	EST	Not completed
42 M. Stockmayer	AUT	102.47			
43 T. Nielsen	DEN	103.09			
44 M. Szczurek	POL	105.22			
45 W. Key	AUS	105.29			

**女子 (8.625km, 410m)**

1 M. Skogum	SWE	62.27	46 K. Olah	HUN	84.17
2 A. Viilo	FIN	64.42	47 J. Cieslarova	TCH	84.49
3 Y. Hague	GBR	66.09	48 K. Federer	USA	84.56
4 E. Koskivaara	FIN	67.04	49 L. Eades	GBR	85.43
5 K. Tiira	FIN	67.37	50 U. Ornhagen	DEN	86.19
6 M. Jansson	SWE	67.43	51 P. Genova	BUL	86.30
7 A. Nilsson	SWE	68.09	52 H. Dolezelova	TCH	86.36
8 R. Andersen	NOR	69.57	53 P. Dickison	USA	88.42
9 T. Fossli	NOR	70.09	54 K. Stratz	GER	89.51
10 S. Fesseler	SUI	72.39	55 I. Liberdova	SVK	89.52
11 A. Hogseth	NOR	72.52	56 P. James	CAN	90.58
12 V. Konig	SUI	73.33	57 G. Mikaitiene	LTU	91.18
13 M. Kubatkova	TCH	74.08	58 C. Hagen	CAN	91.46
14 M. Honzova	TCH	74.23	59 U. Creagh	IRL	92.34
15 I. Mikhalko	RUS	74.33	60 L. Marion	SLO	92.38
16 J. James	GBR	74.46	61 C. Lee	USA	94.27
17 K. Renger	GER	74.47	62 I. Petrova	BUL	94.30
18 B. Wolf	SUI	75.33	63 A. Tamasauska	LAT	95.22
19 A. Gornicka	POL	76.10	64 C. Kunzel	AUT	98.09
20 A. Bogren	SWE	76.31	65 A. Feaver	AUS	98.29
21 C. Thrane	DEN	76.32	66 G. Macken	AUS	98.37
22 L. Bohm	AUT	76.35	67 A. Piolat-Manci	FRA	100.13
23 H. Sandstad	NOR	77.14	68 S. Stripp	USA	100.56
24 T. Robinson	NZL	77.32	69 S. Kiue	JPN	103.13
25 I. Namovira	LAT	77.41	70 F. Schmitt	GER	104.52
26 Z. Abzalone	LAT	77.59	71 I. Kovacs	HUN	105.50
27 R. Kolkkala	FIN	78.07	72 T. Kamenarova	BUL	106.03
28 D. Girinskaite	LTU	78.09	73 J. Soulard	FRA	107.24
29 S. Rakhimowa	RUS	79.17	74 J. Browne	NZL	113.51
30 T. Jaksonova	RUS	79.26	75 Y. Fukushi	JPN	114.17
31 M. Palcau	FRA	79.42	76 E. Maturana	ESP	114.45
32 M. Gelderman	NZL	79.49	77 J. Cleary	IRL	119.03
33 H. Finke	GER	79.51	78 B. Williamson	RSA	123.58
34 K. Lovasi	HUN	80.16	79 N. Punek	CRO	146.43
35 A. Horvath	HUN	80.34	C. Grondahl	DEN	Not completed
36 N. Taws	AUS	81.34	P. Milusheva	BUL	Not completed
37 M. Romanens	SUI	82.10	B. Baczek	POL	Not completed
38 A. Abola	LAT	82.17			
39 S. Rodiere	FRA	82.36			
40 H. Monro	GBR	83.03			
41 K. Fettes	NZL	83.09			
42 L. Simson	AUS	83.21			
43 N. Rudakova	RUS	83.23			
44 T. Norgaard	DEN	83.27			
45 K. Kaljus	EST	83.29			

## リレー

男子 (10.030-10.460km, 400-425m×4)

1走	時間	差	2走	時間	差	区間
1 EST( 3)	53.18		1 SWE( 9)	107.14		53.44
2 FIN( 1)	53.25	+0.07	2 FIN( 1)	108.27	+1.13	55.02
3 SWE( 9)	53.30	0.12	3 SUI(19)	108.36	1.22	54.43
4 TCH(30)	53.43	0.25	4 DEN( 5)	111.03	3.49	57.16
5 DEN( 5)	53.47	0.29	5 FRA(32)	111.40	4.26	53.44
6 SUI(19)	53.53	0.35	6 TCH(30)	112.40	5.26	58.57
7 GBR(29)	55.15	1.57	7 RUS(28)	113.01	5.47	55.31
8 LAT(21)	56.06	2.48	8 NOR(22)	114.08	6.54	55.41
9 AUS(16)	56.41	3.23	9 POL( 8)	115.09	7.55	56.42
10 NZL(24)	57.23	4.05	10 GBR(29)	115.18	8.04	60.03
11 AUT(11)	57.28	4.10	11 AUT(11)	116.00	8.46	58.32
12 RUS(28)	57.30	4.12	12 AUS(16)	117.51	10.37	61.10
13 CAN(26)	57.40	4.22	13 NZL(24)	119.27	12.13	62.04
14 FRA(32)	57.56	4.38	14 GER(20)	119.29	12.15	61.09
15 HUN(10)	58.01	4.43	15 LTU(12)	120.38	13.24	61.19
16 GER(20)	58.20	5.02	16 LAT(21)	121.17	14.03	65.11
17 NOR(22)	58.27	5.09	17 HUN(10)	121.20	14.06	63.19
18 POL( 8)	58.27	5.09	18 EST( 3)	124.06	16.52	70.48
19 LTU(12)	59.19	6.01	19 ITA(23)	124.20	17.06	61.26
20 SVK(17)	62.16	8.58	20 CAN(26)	127.41	20.27	70.01
21 ITA(23)	62.54	9.36	21 SVK(17)	129.06	21.52	66.50
22 BLR( 2)	63.10	9.52	22 BUL(15)	130.53	23.39	66.58
23 BUL(15)	63.55	10.37	23 IRL(18)	131.03	23.49	64.09
24 SLO(25)	66.26	13.08	24 ROM(14)	134.24	27.10	63.44
25 IRL(18)	66.54	13.36	25 USA( 6)	136.04	28.50	63.16
26 BEL( 7)	68.15	14.57	26 BEL( 7)	136.07	28.53	67.52
27 ROM(14)	70.40	17.22	27 BLR( 2)	140.27	33.13	77.17
28 USA( 6)	72.48	19.30	28 SLO(25)	143.22	36.08	76.56
29 ESP(27)	82.16	28.58	29 ESP(27)	162.59	55.45	80.43
30 CRO(31)	86.36	33.18	30 CRO(31)	164.03	56.49	77.27
31 RSA( 4)	125.01	71.43	31 RSA( 4)	241.35	134.21	116.34
JPN(13)	Disq.		JPN(13)	Disq.		

3走	時間	差	区間	4走	時間	差	区間
1 SUI(19)	161.39		53.03	1 SUI(19)	217.16		55.37
2 FIN( 1)	163.30	+1.51	55.03	2 GBR(29)	217.31	+0.15	49.25
3 RUS(28)	166.30	4.51	53.29	3 FIN( 1)	218.20	1.04	54.50
4 SWE( 9)	166.43	5.04	59.29	4 SWE( 9)	220.18	3.02	53.35
5 GBR(29)	168.06	6.27	52.48	5 RUS(28)	221.02	3.46	54.32
6 DEN( 5)	169.14	7.35	58.11	6 NOR(22)	221.21	4.05	51.18
7 NOR(22)	170.03	8.24	55.55	7 DEN( 5)	223.18	6.02	54.04
8 POL( 8)	172.12	10.33	57.03	8 TCH(30)	231.25	14.09	56.36
9 FRA(32)	172.17	10.38	60.37	9 FRA(32)	232.23	15.07	60.06
10 TCH(30)	174.49	13.10	62.09	10 POL( 8)	236.08	18.52	63.56
11 AUS(16)	175.13	13.34	57.22	11 AUS(16)	236.57	19.41	61.44
12 AUT(11)	178.52	17.13	62.62	12 LAT(21)	237.04	19.48	55.41
13 LAT(21)	181.23	19.44	60.06	13 AUT(11)	240.24	23.08	61.32
14 LTU(12)	183.10	21.31	62.32	14 LTU(12)	241.24	24.08	58.14
15 EST( 3)	183.48	22.09	59.42	15 GER(20)	244.17	27.01	60.25
16 GER(20)	183.52	22.13	64.23	16 HUN(10)	252.46	35.30	65.37
17 HUN(10)	187.09	25.30	65.49	17 EST( 3)	252.59	35.43	69.11
18 NZL(24)	188.23	26.44	68.56	18 IRL(18)	257.32	40.16	65.00
19 IRL(18)	192.32	30.53	61.29	19 CAN(26)	261.59	44.43	60.18
20 ITA(23)	192.42	31.03	68.22	20 ITA(23)	262.21	45.05	69.39
21 BUL(15)	192.48	31.09	61.55	21 BUL(15)	262.25	45.09	69.37
22 BEL( 7)	199.20	37.41	63.13	22 SVK(17)	263.04	45.48	59.08
23 CAN(26)	201.41	40.02	74.00	23 NZL(24)	264.34	47.18	76.11
24 SVK(17)	203.56	42.17	74.50	24 USA( 6)	275.03	57.47	66.52
25 ROM(14)	205.08	43.29	70.44	25 ROM(14)	282.53	65.37	77.45
26 USA( 6)	208.11	46.32	72.07	26 SLO(25)	288.56	71.40	71.20
27 SLO(25)	217.36	55.57	74.14	27 BLR( 2)	301.34	84.18	83.53
28 BLR( 2)	217.41	56.02	77.14	28 BEL( 7)	306.48	89.32	107.28
29 CRO(31)	254.25	92.46	90.22	29 CRO(31)	347.13	129.57	92.48
30 ESP(27)	254.29	92.50	91.30	30 ESP(27)	364.33	147.17	110.04
31 RSA( 4)	330.59	169.20	89.24	JPN(13)	Disq.		
							RSA( 4) Not completed

## 女子 (6.670-6.830km, 235-270m×4)

走	時間	差	区間
1 SWE(69)	42.20		
2 FIN(59)	42.34	+0.14	
3 NOR(72)	43.15	0.55	
4 TCH(67)	44.11	1.51	
5 HUN(54)	44.34	2.14	
6 SUI(65)	44.40	2.20	
7 AUS(66)	44.57	2.37	
8 RUS(52)	45.39	3.19	
9 LTU(55)	45.41	3.21	
10 DEN(60)	45.41	3.21	
11 USA(58)	49.17	6.57	
12 GBR(61)	50.33	8.13	
13 LAT(71)	52.45	10.25	
14 GER(68)	53.14	10.54	
15 BUL(51)	55.13	12.53	
16 NZL(70)	57.19	14.59	
17 FRA(53)	59.00	16.40	
18 ESP(63)	63.59	21.39	
19 IRL(64)	68.15	25.55	
20 SLO(62)	68.46	26.26	
21 JPN(56)	69.09	26.49	
2走	時間	差	区間
1 SWE(69)	82.52		40.32
2 NOR(72)	86.58	+4.06	43.43
3 FIN(59)	87.04	4.12	44.30
4 SUI(65)	90.46	7.54	46.06
5 HUN(54)	93.23	10.31	48.49
6 RUS(52)	93.28	10.36	47.49
7 TCH(67)	94.22	11.30	50.11
8 DEN(60)	95.20	12.28	49.39
9 AUS(66)	96.11	13.19	51.14
10 GBR(61)	96.47	13.55	46.14
11 LTU(55)	97.55	15.03	52.14
12 GER(68)	101.25	18.33	48.11
13 USA(58)	103.48	20.56	54.31
14 NZL(70)	104.25	21.33	47.06
15 LAT(71)	104.32	21.40	51.47
16 FRA(53)	107.51	24.59	48.51
17 BUL(51)	110.25	27.33	55.12
18 SLO(62)	128.53	46.01	60.07
19 IRL(64)	132.39	49.47	64.24
20 ESP(63)	137.28	54.36	73.29
21 JPN(56)	164.07	81.18	94.58

走	時間	差	区間	走	時間	差	区間
1 SWE(69)	126.10		43.18	1 SWE(69)	168.48		42.38
2 NOR(72)	130.20	+4.10	43.22	2 NOR(72)	172.51	+4.03	42.31
3 FIN(59)	131.05	4.55	44.01	3 FIN(59)	176.59	8.11	45.54
4 HUN(54)	135.23	9.13	42.00	4 TCH(67)	180.29	11.41	44.52
5 TCH(67)	135.37	9.27	41.15	5 RUS(52)	190.47	21.59	50.12
6 SUI(65)	139.22	13.12	48.36	6 SUI(65)	191.11	22.23	51.49
7 RUS(52)	140.35	14.25	47.07	7 DEN(60)	191.50	23.02	47.41
8 DEN(60)	144.09	17.59	48.49	8 HUN(54)	192.21	23.33	56.58
9 GBR(61)	145.54	19.44	49.07	9 GBR(61)	192.37	23.49	46.43
10 AUS(66)	149.51	23.41	53.40	10 GER(68)	201.43	32.55	48.47
11 LTU(55)	152.46	26.36	54.51	11 LTU(55)	203.21	34.33	50.35
12 GER(68)	152.26	26.46	51.31	12 LAT(71)	203.44	34.56	48.15
13 LAT(71)	155.29	29.19	50.57	13 AUS(66)	207.40	38.52	57.49
14 USA(58)	163.55	37.45	60.07	14 FRA(53)	221.11	52.23	50.49
15 BUL(51)	166.19	40.09	55.54	15 BUL(51)	221.28	52.40	55.09
16 NZL(70)	166.30	40.20	62.05	16 NZL(70)	222.55	54.07	56.25
17 FRA(53)	170.22	44.12	62.31	17 USA(58)	222.59	54.11	59.04
18 IRL(64)	197.27	71.17	64.48	18 IRL(64)	262.23	93.35	64.56
19 SLO(62)	219.04	92.54	90.11	19 JPN(56)	292.06	123.19	63.57
20 JPN(56)	228.09	101.59	64.02	20 SLO(62)	292.55	124.07	73.51
21 ESP(63)	243.06	116.56	105.38	21 ESP(63)	362.50	194.02	119.44

MEN

1 - FINLAND (FIN)	15 - BULGARIA (BUL)	29 - GREAT BRITAIN (GBR)
101 Keijo Parkkinen	115 Martin Danovski	129 Jonathan Musgrave
201 Mika Kuisma	215 Georgi Kartalov	229 Martin Bagness
301 Petri Forsman	315 Velko Serdarov	329 Steven Palmer
401 Timo Karppinen	415 Plamen Djambazov	429 Steven Hale
2 - BELARUS (BLR)	16 - AUSTRALIA (AUS)	30 - CZECH REPUBLIC (TCH)
102 Igor Zvontsov	116 Steve Craig	130 Petr Kozák
202 Slawa Natalewitch	216 Warren Key	230 Libor Žridkaveselý
302 Igor Iakovkin	316 Jock Davis	330 Tomáš Prokés
402 Andrei Korolewitsch	416 Gran Bluett	430 Petr Vavrys
3 - ESTONIA (EST)	17 - SLOVAK REPUBLIC (SVK)	31 - CROATIA (CRO)
103 Sixten Sild	117 Peter Barcik	131 Ivo Tišljar
203 Rene Ottesson	217 Jozef Chupek	231 Ivan Marchiotti
303 Leho Haldna	317 Jozef Wallner	331 Damir Gobec
403 Tarvo Avaste	417 Jozef Pollak	431 Tomislav Kaniški
4 - SOUTH AFRICA (RSA)	18 - IRELAND (IRL)	32 - FRANCE (FRA)
104 Ruedi Siegenthaler	118 James Logue	132 Gilles Perrin
204 Steve Kench	218 Bill Edwards	232 Olivier Coupat
304 Colin Dutkiewicz	318 John Feehan	332 Stéphane Toussaint
404 Ian Bratt	418 Colm O'Halloran	432 Jean Daniel Giroux
5 - DENMARK (DEN)	19 - SWITZERLAND (SUI)	
105 Chris Terkelsen	119 Dominik Humbel	
205 Rasmus Ødum	219 Christian Aebersold	
305 Flemming Jørgensen	319 Urs Fluhmann	
405 Allan Mogensen	419 Thomas Bührer	
6 - UNITED STATES (USA)	20 - GERMANY (GER)	
106 Mike Eglinski	120 Lothar Halder	
206 Joe Brautigam	220 Andreas Luckmann	
306 James Scarborough	320 Michael Thierolf	
406 Mikell Platt	420 Rolf Breckle	
7 - BELGIUM (BEL)	21 - LATVIA (LAT)	
107 Iwan Vis	121 Ants Grinde	
207 Dirk Goossens	221 Janis Ozolins	
307 Hugue Petit	321 Ivars Zagars	
407 Thierry Lamury	421 Aigars Leiboms	
8 - POLAND (POL)	22 - NORWAY (NOR)	
108 Robert Banach	122 Rolf Vestre	
208 Stawomir Woźniak	222 Havard Tveite	
309 Jerzy Porzycer	322 Jon Tvedt	
409 Mirosław Szczęsek	422 Petter Thoresen	
9 - SWEDEN (SWE)	23 - ITALY (ITA)	
109 Arto Rautiainen	123 Pier Paolo Corona	
209 Kent Olsson	223 Daniele Sacchet	
309 Jörgen Mårtensson	323 Roberto Pradel	
409 Martin Johansson	423 Dennis Dalla Santa	
10 - HUNGARY (HUN)	24 - NEW ZEALAND (NZL)	
110 Zoltán Lantos	124 Alistair Landels	
210 Pál Horváth	224 Robert Jessop	
310 Ferenc Vinicza	324 Greg Barbour	
410 Gábor Pavlovics	424 Darren Ashmore	
11 - AUSTRIA (AUT)	25 - SLOVENIA (SLO)	
111 Manfred Stockmayer	125 Gregor Anderluh	
211 Ferri Gassner	225 Aleš Poljanšek	
311 Roland Arbeiter	325 Boris Bauman	
411 Martin Brantner	425 Bojan Jevsevar	
12 - LITHUANIA (LTU)	26 - CANADA (CAN)	
112 Artūras Bartkevičius	126 Brian Graham	
212 Vidas Armalis	226 Francis Falardeau	
312 Vytautas Gipas	326 Chris Seligy	
412 Edgaras Voveris	426 Brian May	
13 - JAPAN (JPN)	27 - SPAIN (ESP)	
113 Shin Murakoshi	127 Javier Garín	
213 Koji Kashimada	227 Jesus Bernal	
313 Itsuki Kunisawa	327 Julio Garde	
413 Takashi Irie	427 Angel Rojas	
14 - ROMANIA (ROM)	28 - RUSSIA (RUS)	
114 Mihai Veres	128 Ilia Gusev	
214 Ovidiu Duca	228 Sergei Sibilev	
314 Mircea Moldovan	328 Vladimir Kožlov	
414 Andrei Revesz	428 Vladimir Alexeev	

WOMEN

51 - BULGARIA (BUL)	60 - DENMARK (DEN)	68 - GERMANY (GER)
151 Pavlina Genova	160 Ulrika Ørnhaugen	168 Wiebke Karger
251 Ianka Petrova	260 Lone Hansen	268 Heidrun Finke
351 Pepa Milusheva	360 Charlotte Thrane	368 Katrin Renger
451 Todorka Kamenarova	460 Tenna Nørgaard	468 Frauke Schmitt
52 - RUSSIA (RUS)	61 - GREAT BRITAIN (GBR)	69 - SWEDEN (SWE)
152 Tatiana Jaksanova	161 Heather Monro	169 Anette Nilsson
252 Irina Mikhalko	261 Yvette Hague	269 Marlena Jansson
352 Nadezda Rudakova	361 Jean Cory-Wright	369 Anna Bogren
452 Svetlana Rakhimova	461 Jenny James	469 Marita Skogum
53 - FRANCE (FRA)	62 - SLOVENIA (SLO)	70 - NEW ZEALAND (NZL)
153 Gilles Perrin	162 Ana Pribakovic	170 Katie Fettes
253 Olivier Coupat	262 Lena Marion	270 Tania Robinson
353 Stephane Toussaint	362 Irena Bravc	370 Jeanine Browne
453 Jean Daniel Giroux	462 Anica Hribar	470 Marquita Gelderman
54 - HUNGARY (HUN)	63 - SPAIN (ESP)	71 - LATVIA (LAT)
154 Andrea Horvath	163 Encarna Maturana	171 Anita Tamasauska
254 Réka Tóth	263 Marilou Lahoz	271 Irina Namovira
354 Katalin Oláh	363 Miriam De Osma	371 Zanda Abzalone
454 Katalin Lovasi	463 Dolores Rabadan	471 Alida Abola
55 - LITHUANIA (LTU)	64 - IRELAND (IRL)	72 - NORWAY (NOR)
155 Danutė Girinskaite	164 Una Creagh	172 Hanne Staff
255 Giedrė Maikaitiene	264 Eileen Loughman	272 Hanne Sandstad
355 Inga Veiknytė	364 Eadacin Morrish	372 Torunn Fossli
455 Nida Akstinienė	464 Julie Cleary	472 Ragnhild Bente Andersen
56 - JAPAN (JPN)	65 - SWITZERLAND (SUI)	
156 Sanae Kiue	165 Sabrina Fesseler	
256 Yoshiko Fukushi	265 Ursula Oehy	
356 Chieko Miyamoto	365 Brigitte Wolf	
456 Shinobu Kaneko	465 Vroni König	
58 - UNITED STATES (USA)	66 - AUSTRALIA (AUS)	
158 Kristin Federer	166 Nicki Taws	
258 Peggy Dickison	266 Georgina Macken	
358 Debbie Newell	366 Emily Viner	
458 Crystine Lee	466 Ljubov Simson	
59 - FINLAND (FIN)	67 - CZECH REPUBLIC (TCH)	
159 Johanna Tiira	167 Petra Novotná	
259 Kirsi Tiira	267 Maria Honzová	
359 Annika Viilo	367 Marcela Kubatková	
459 Eija Koskivaara	467 Jana Cieslarová	

## 第15回世界選手権大会報告書

発行日 1993年11月14日

編集責任者 山岸 健也

発行者 WOC SQUAD JAPAN

代表 宮川 達哉